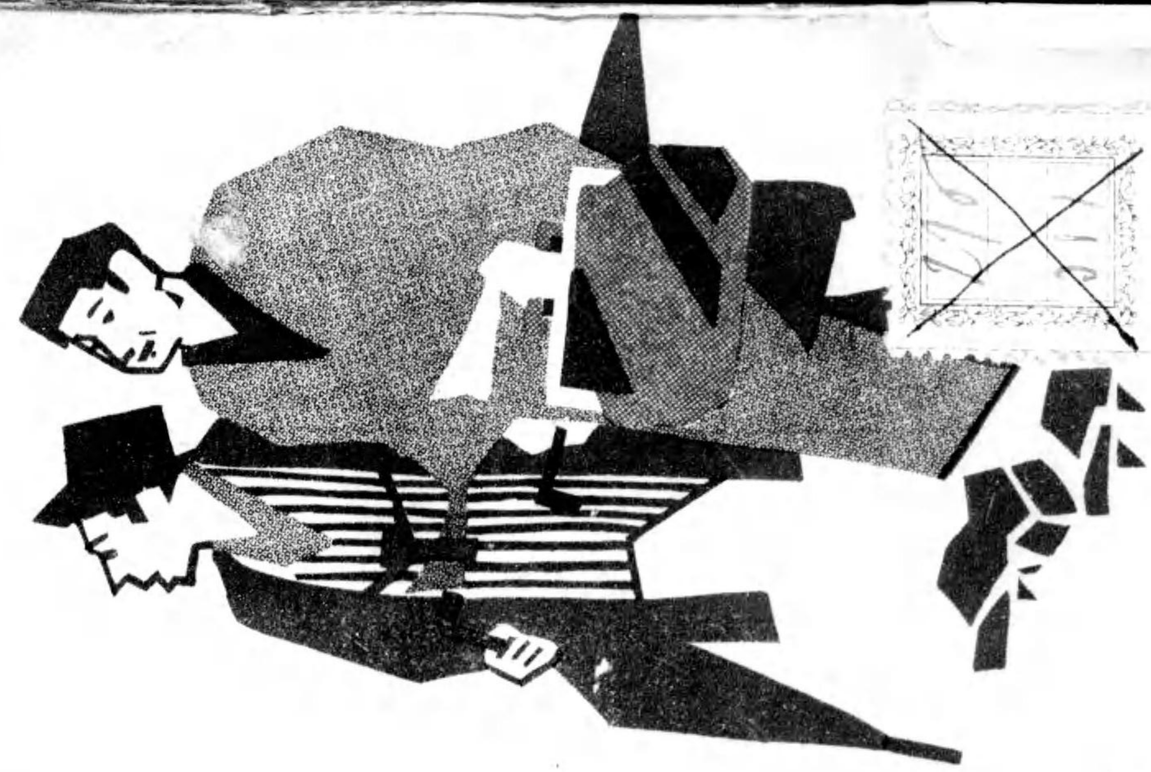
沪剧十唱腔选



邱志良
邱慧芳

特102
266

經濟的見物博覽會と東京

大正
3. 4. 21
内交

はしがき

旅は恥の掻き棄てなどゝ云ふがそれは古昔の妄言で、土地不案内の所へ來て、ウロ〳〵する位ゐ氣の利かない見つともない事はない。況や其土地に住んでゐて其土地の地理を知らぬのは恥ずべき事の一つとも云はねばならぬ。本書は東京大正博覽會の開催に際し、地方より上京する人々の爲めに最も親切なる案内者となり、最も經濟的に、最も安全に、博覽會及ひ東京を見物し得、併せて東京在住の人々にも何等の參考たらしめんと欲して編著したるものである。編中東京案内の部を二つに分ち、一を純然たる案内風に書き、一を喜劇東京見物と題し戯文的に物したのは、讀者を厭かせまいのとの老婆心なので、戯文の中にそれそれ寓意を含ませてある事を察して戴きたいのである。

曾て安樂警視總監は著者に對し、上京する地方の心得を語られた事があ

はしがき

るが、本書は實に總監閣下の言葉を參考として執筆したものである。故に本書を一册携へて居れば最も經濟的に最も安全に見物が出來る譯である。

大正三年陽春

櫻水社同人編

目次

第一　大博案内……一
博覽會の目的と歴史……一
會期と職員……四
觀覽會と福引……六
經濟的博覽會見物……八
青山附屬會場……二三
各府縣出品物……二六
美術館の繪畫彫刻……三八
特設館……四四
飲食店と即賣店……四九
博覽會と新聞社……五一

博覽會と大日本ビール會社……五三
博覽會と東京瓦斯會社……五四
博覽會と大日本製糖會社……五六
博覽會と東洋汽船會社……五七
博覽會と大正生命保險會社……六〇
博覽會と拓殖銀行……六二
博覽會と臺灣製糖會社……六三
博覽會と日本郵船會社……六四
博覽會と朝鮮銀行……六六
博覽會と臺灣銀行……六七
博覽會とサイダー……六八
電車と人車……六九
第二　東京案內……七一

東京の歷史……七一
東京の名所舊蹟……七四
經濟的東京見物……九四
官廳一覽……一〇二
東京の宿屋……一〇六
左へ左へ……一〇七
東京の電車……一〇九
東京の人力車……一一九
東京の汽船……一二一
東京の乘合自働車……一二三
郊外電車と鐵道……一二三
大學病院案內……一二九
芝居と相撲……一三一

目次

東京の寄席……一四一
東京の活動寫眞……一四三
魚河岸の今昔……一四七
投機界……一四九
東京の橋梁……一五三
古着の柳原……一五七
東京の看護婦會……一五八
自働電話……一六〇
食道樂……一六一
カフエーバウリスタ……一六五
東京の郊外……一六六
花柳界……一七六
東京の土産……一八二

地方人と銀行會社……一八三
第三　喜劇東京見物……二〇一
着　京……二〇一
朦朧車夫……二〇四
巾着切……二〇八
警官の注意……二一二
ミルクホール……二一五
遺失物……二一九
枕さがし……二二二
美人局……二二五
伴の學校と寄宿舍……二二八
山勘横丁……二三二
カフエーの氣分……二三五

美人不忍池畔より博覽會を眺む

目次

千束町の魔窟……二四〇

（目次終）

經濟的見物 博覽會と東京

櫻水社發行

第一 大博案内

■博覽會の目的と歴史

一體博覽會とは何の爲めに開催するものなのであらう、慰みの爲めか、非ず、遊覽の爲めか、非ず、其目的たるや、實に、

■**殖産工業の發達**　を圖り、富國强兵の實を擧げんが爲めに、各國各所より、各種の製作品を一所に集め、人智の啓發に努めるに外ならぬのである。抑々博覽會なるものゝ始めて世に現れたのは、西暦一千七百九十八年、即ち今より凡そ二百年ばかりの昔、

■**佛蘭西巴里**　に於いて開催された工業博覽會がそれである。此博覽會の如きも、諸種の事物の發達した今日から見ると、實に子供の遊び見たやうなもので、開催日數三日間、出品人百五十人と云ふ小なるものであつた。所で、

■**我國の博覽會**　の始めは何時かと云ふに、寶暦七年、江戸湯島に於いて時の學者村田元雄が開催した物産會がそれで、其翌八年には、彼の有名な風來山人平賀源内が神田に物産會を、同十二年に藥品會を開催した。而して明治に入り、其四年に大學南校の主催で、九段上に物産會を開いたが、是れが我國に於ける、

■**公立博覽會**　の始めである、其後農商務省の事業たる所の内國博覽會は、明年十年上野に於て開催されたのを最初として、同じく上野に於いて十二年に第二回を、二十三年に第三回を、二十八年に京都に於いて第四回を、三十六年大阪に於て第五回を開催したのである。又、去る四十年、上野に於いて開催された博覽會は、

■**東京市の主催**　で、東京勸業博覽會と云ふのであつた。所で今回の博覽會は、如何なるものであるかと云ふに、東京府の主催で、名付て東京大正博覽會と云ふのであるが、言易からしむる爲めに、俗に大博々々と云つてゐる。其目的たるや、殖産工業の發達に資すべき事は勿論であるが、それよりも第一に、

■御即位式　を紀念しやうと云ふに他ならぬ、實に國民一同の見遁すべからざるものと謂はねばならぬのである。

■會期と職員

會期は大正三年三月二十日より、同年七月三十一日に至る一百三十四日間である。總裁には畏なくも、

■閑院宮載仁親王殿下　を戴き奉り、其下には左の職員がある。

會　長（東京市知事）　宗　像　政
副會長（事務局長）　平　田　武　二
理　事（總務課長）　久保儀三郎
同　（同工事課長）　王供阿久
同　（經理課長）　高橋德太郎
同　（庶務課長）　舟橋雅一
同　（出納誤長）　竹內順吉
同　（工事監督）　沖　一　誠
審査總長　子爵清浦奎吾

此他に事務員其他、審査部には部長、審査官以下の職員が置かれてある。出品物は都合十四部に大別されてゐるので、審査部も無論十四に分けられてゐる、今その、

■審査部長　の名を次に擧げるとしやう。

第一部教育及學藝　文部省普通學務局長　田所美治△第二部美術及美術工藝　東京美術學校長　正木直彥△第三部農業及園藝　東京帝國大學農科大學長　農學博士　古在由直△第四部林業　農商務省山林技師　松波季實△第五部水產　農商務省水產講習所長　下啓助△第六部飲食品　內務省衞生試驗所長　藥學博士　田原良純△第七部採鑛及冶金　東京帝國大學工科大學長　工學博士　渡邊渡

△第八部化學工業　農商務省工業試驗所長　工學博士　高山甚太郎△第九部染織工業　東京瓦斯株式會社長　高松豐吉△第十部製作工業　東京高等工業學校長　手島精一△第十一部建築及裝飾　東京帝國大學工科大學教授　工學博士　塚本靖△第十二部機械船舶及電氣　東京高等工業學校教授　工學博士　阪田貞一△第十三部土木及通運　內務省技師　工學博士　近藤虎五郎△第十四部經濟及衛生　內務省地方局長　小橋一太△第十五部馬匹　陸軍省馬政長官　陸軍少將　淺川敏靖

■觀覽券と福引

■觀覽券　博覽會の觀覽券は開場當日から正門內でも賣るが、市內各所で取次販賣もしてゐる觀覽券は一日、十五日、日曜日、大祭日、平日の五種に分たれ、日曜日大祭日の分は廿錢、平日の分は十五錢、一日、十五日の分は十錢で、此の一日十五日の分には福引券を添えない規定である、猶子供の觀覽券及び夜間の入場券は各五錢宛で、割引、團體割引は百人以上は二割引、各地の大會參列者には同じく二割引、博覽會の勸誘に基きて開催せらるゝ諸大會參列者には三割引、學生團體にても教員の引率せる者には五割引である。

■福引券の注意　福引券は十五錢觀覽券廿錢觀覽券のものに限り福引券を附し、開會前から發行して六月卅日限り停止するのである。其券數は一組五十萬枚にて組毎に抽籤を以て之を定め、一等百圓二枚、二等五十圓四枚、三等二十圓十枚、四等五圓三十枚、五等一圓三百三十枚で、抽籤は博覽會々長、協賛會々長、同副會長、係員、其他警察官立會の上公衆の面前にて之を行ひ、第一回は四月六日である、福引券の當籤者はその翌日から七月廿日迄に福引券引換に當籤即賣券を請求するので其即賣權の權利は博覽會開會中にて出品賣約代金の外には効力が無いのである。入場券の販賣取次所を左に掲げやう。

上野廣小路公園入口左側崖下、小石川區春日町五一下岡一實、池の端中町四濠田ふみ下谷區上野元黑門町二四小栗さと、下谷下車坂十一齋藤寅治、上野花園町一伊藤貞次郎、芝芝口二丁目廿、新橋附近赤坂表町一の四、本所小泉町三六、兩國停車前、本所仲の郷業平町一九五、下谷池の端七軒町八富田きく、上野櫻木町二岩田雜貨店、下谷上野公園前みやこ座、下谷上野花園町十三、下谷七軒町新道角店、下谷七軒町七工藝社、下谷茅町角店、下谷池の端仲町煙草店、上野町達磨角床屋、同角屋、

■經濟的博覽會見物

大正博覽會を精細に見やうとすると、何うしても一週間から十日は掛つて了ふ。極ザッと見るにしても三日位はかゝるのである。何しろ上野公園の過半を占め總坪數が十二萬七千餘坪各館の里程が四里半で特設館や興行物を加へると、

■十五里内外　もあるのであるから見物するといつても容易な事ではない、それを最も順序好く一つも見落さない樣に見る順序をこれから書く事とする。會場は之を二に分つて第一會場と第二會場となつてゐる、第一會場は山内竹の臺から新公園一帶及び博物館構内に亘り建築は主としてセセッション式を採り工業館、體育館、鑛山館、林業館、水産館、學藝館、美術館、動物舍、拓殖館及び朝鮮總督府建設の朝鮮館より成り、是等の間に各種の特設館、興行物、飲食店等が散在してゐる、第二會場は不忍池畔の北側一帶の地を占め各館の建築は第一會場とは反對に主として、東洋風の形式の下に農業、運輸、染織、外國、動力、機械の各館と臺灣總督府建設の臺灣館などが設けられてゐる、又池の南側一帶は各府縣の即賣店が軒を並べて建並んでゐる、いざや是れより是等の諸館を見物するとしやう。上野山下で電車を降りると先づ眼の前に聳え立つてゐるのは、即ち名譽門である。此門から袴越の兩側を連柱が暫く續いて公園

の掲示場の前には、

■一對の智德塔　が立つてゐる、此智德塔からは智の水、德の水といふのが泉の樣に流れ出て人々の飲むに任せてある。それより正門に至るまでの間の左右兩側には御即位式の五色の旗を掲げて其上にイルミネーションが點ぜられる仕掛になつてゐる。正門は高さが八十尺竹の臺廣小路の大佛前に巍然として聳え、正面上部の神像は三種の神器を捧持し左右に文武百官の朝する樣を彫出して御即位式の意を含ましてある、この正門の左右には二十四本の柱が連りその兩端には喇叭を持つた神像が置かれ門上に大書された「東京大正博覽會」の七字は德川家達公の揮毫にかゝるのである。門を這入ると噴水があつて其の東方に外人などに通辯の勞を取るジャバン、ツーリストの協贊會で建てた小さな建物がある、陳列館の第一は各館中最も規模の大きい、

■工業館　て右に第一號館左が第二號館竹の臺陳列場にあるのが、第三號館である、そして第一號館は化學工業品で、重なるものは薰香香料、化粧品等にして一般化學藥品、陶磁器、硝子等之に亞ぎ此外染織館で收容しきれなかつた染色化學の一部も此館に陳列されてゐるその呼物とも云ふべきは、京都高島屋出品の室內裝飾で行幸啓の砌にはそのまゝ御休憩室に當られることに成つてゐる、次は左の第二號館で、此處は建築及裝飾に關する物や飲食品を出陳しあらゆる家具類、見臺、鏡臺、煙草盆に至るまで陳列され、建築模型品、陳列棚、罐詰、清凉飲料、漬物、和洋菓子類等東京酒問屋組合、大日本麥酒會社、帝國麥酒會社、風月堂、榮太樓、濱口醬油店等が何れも意匠を凝らして出品を

してゐる、次の第三號館は工業館中一番壯大なもので竹の臺陳列館の大路へ面した方にセセッション式の二つの門を建て三ヶ所の入口を作つてある、重に製作工業品で裝身具、携帶品、旅行用具、金屬製品、刄物類、小間物、文房具、履物、靴等數限りなく陳列されてある、この第三號館を裏へ出るとそこには、

■園藝館（農業館別館）がある總菜類や剪花などが色鮮かに出陳してある、これに續いて電氣應用の娯樂館があつて疲れた眼を一寸休ませるには至極結構である、更にそれよりは、巽畫會の文展傑作品を觀覽し、もう少し北へ進めば巢鴨病院を模造した建築物があり蘆原將軍の等身像までが出來てゐる、此位歩いたら足も餘程疲れる頃だらうから園藝館や娯樂館の裏の方から動物園前までの廣場に賑かに軒を連ねてゐる三十餘軒の飲食店で一寸許り休みそれから美術學校の前角に宮崎縣產の幅五間あるといふ杉材が出陳してあるからそれを見、林業館と鑛山館とは工業館と向ひ隣りになつてゐるが之れを後廻しにして直に圖書館前の、

■體育館　を見るが能い、こゝには屋外屋內の運動具が悉く設けられそれに各地方の土地自慢の踊り例へば棒踊りの面白い鹿兒島踊り同じく太鼓踊、伊豆大島の體育踊、熊本臼太鼓出陣の舞、南部七戸駒の舞など何れも其の土地々々から出て來て思ふさま踊つて見せるといふのであるから、見遁すべからざる所である、此處を出て屏風坂通りへ戻つて來て、博物館の構內へ這入るのである、一寸御注意して置くが博覽會の觀覽券で博物館も表慶館も無料で見る事が出來る。表慶館では數日毎に陳列品を取替へ博物館では浮世繪や德川時代の甲冑なぞを

一つに纒めて之を新舊對照して見せる、この新舊の美術を對照して見せるのが今回の博覽會に於ける特色の一つである博物館を見了つたらその隣りの、

■參考館　へ移る此處は階上が衞生に關する陳列品階下が西陣織の出陳場となつてゐる此參考館の前には貨車懸け衡器が出陳されてある其重さが驚く勿れ四萬斤、鐵道の貨車に荷を積んだまゝ乘せて目方を衡るといふ素晴しいものである。次が教育學藝館此館は閉會後も其まゝ博物館へ寄贈すべき建物として建られたのだから外見の派手に見えない代り半永久的のもので、表慶館に對する都合上ルネッサン式を採り極めて堅牢に出來てゐる、同館は所謂學藝に關するもの一切を陳列するのであるが茲て尤も人の目を惹くのは正面に飾られてある帝國劇場の模型で高さ十尺幅七尺觀覽席の前半部、舞臺、樂屋等を見せ女優の活人形までもあるし、又電氣や水を引用し動力に依つて汽車電車の運轉及豪雨落雷の實況を見せるヂオラマも在る。其次は、

■水産館　といふ順になる、これはセセッション式クリーム色の明るい建物で入口眞上の壁畫は和田英作氏が靈腕を揮つたもので、北入口のは魚族の游いでゐる間に乙姫と浦島太郎を描き宛ら海中にあるやうな思ひがする、館中には東京金魚組合が約五十坪の中庭へ三十坪の小池を作つて各種の金魚や鯉を放養し、又卓上水槽を置いて百圓以上もする金魚を入れなどし、又東京府下各魚類組合が大森海岸を背景として凸字形の棚を架け歴史的に海苔の採取を説明せる仕組をしてゐるが之は却々興味のあると同時に參考にも成るものである、之て博物館の構内にあるものは悉く見て了つたのであるから、博物館の門を出て元

の竹の臺大路へ戻ると道の中央に八角の奏樂堂がある南歐風の建築で欄間の彫刻も極めて緻密で却々見事なものである。それから先刻見殘した、

■林業館　へ這入ると、こゝは屋外陳列の外に出品者特設の陳列所が五館もあつて出品點數は東京千四百點地方一萬餘點に達してゐる目に付くのは山林局の出品と御料局の木曾材を出陳したものである次は工業館第一號館の隣の鑛山館で、半月形の玄關を入ると、入口の上部に炭坑の內面を畫き鶴嘴や金剛石の模樣を白く浮彫として一見、鑛山の氣分が直ちに人に迫るのである。出品者中日本石油と古河が最も座席を占め、寶田、三菱、三井、久原、住友及藤田組等之に亞いてゐる、中でも三菱鑛山日本石油會社の鑿井から製油に至る迄の模型は是非とも一見すべきものである。鑛山館を出ると同館と林業館の裏の方に當つて無數の餘興々行物があるそれから兩大師前の、

■美人島旅行　を覗いて、電氣仕掛けて美しい美人が人の心も魂も奪ひ取つて了はふとするやうな變幻出沒な矯態に見とれるのであるが、餘り見惚れて久米の仙人のやうになつてはいけぬ。次ぎにその前の小笠原及伊豆館に行く之を出ると愈々美術館へ行くのが順序であるが兩大師裏に南洋館といふのがある、宛から南洋へ行つて目の邊りそこの實景を見るやうに氣がするのである。こゝて南洋の特產物や人喰人種の踊りを見て、更に北へ進んで動物舍を見る、此處には名鳥舍と云つて百五十羽乃至二百羽の九官鳥、インコ、鶯、頰白、カナリヤ、ペリカ抔の小鳥を放ち中には三千圓もするといふ鶯もゐる、鷄舍と鶯谷公衆の厩は五月十五日に持込をするのである。奏樂堂を起點にして林業館と鑛山館

の間の通路を新公園の方へ向つて正面に當つた處が即ち、

■美術館　で同館の入口にも五十間の距離に高さ五間乃至十間の柱列があるが之が實に莊重極まるもので宛然ローマへでも行つたやうな氣分になるのである、柱列の北側には東京の出品館南側にはミツワの化粧館、大日本麥酒會社のホール等がある、館の家根は全部硝子張で日本畫、洋畫、彫刻、建築、書、篆刻、金工品、漆工品、陶磁器、七寶硝子、モザイク、ステインドグラス、染織物、寫眞、印刷其他美術工藝品何れも其美を競つて、東洋美術の精華は實に此處に集合してゐるのである。次が、

■拓殖館　で正面の入口には北海道特産の海鳥獸の模型が飾られ後には鮭や鱒の人工孵化の模型が出してある又關東州入口の傍には建網の鯡取模型が拵へてある北海道館は同廳で苦心を重ねて舊土人の風俗等を統計的に紹介し滿洲特別館も規模宏大、該地の生産狀態が一目瞭然たるものであるその隣の樺太館は左右の入口に高さ十五尺の巨材を樹てゝ門の代りとし、左方の壁面には同島東海岸の冬景色を背景として漫ろに寒國の天地を忍ばせてゐる。夫から露國との境界標次は大泊春の景色で前面に樺太特有の草花を配合して諸種の重要物産が陳列してある、次は樺太廳所在地たる豐原の夏の景を掲げて其前に家屋を造つて巧に生活狀態を表してある。次は、

■朝鮮館　である、其建築は昌德宮の結構を移したもので、草色の扉、雲綱彩色の枠壓り、四隅に鬼龍司を配つて、美觀極りなきものである、此處に陳列してあるのは京城の模型、東洋拓殖會社の移民の狀態を示した廻轉式の油畫を

初め、其他同地の特産品であるが、工業品と風俗人形とは館前の別館の中に收めてある中庭の人參畑は同館の呼び物で、其脇にある昌德宮擬ひの休憩所は朝鮮美人が居て客を遇ふのであるから、話の種に立寄も可からう、以上で第一會場は殘らず濟まして了つたのであるから、今度は池の端の、

■第二會場　に行かねばならぬ。第一會場から第二會場に行くのには、いろいろ道があるが、第一は、博物館前から中庭を通つて正門の外に出て、韻松亭脇の坂を下りて第二會場辨天前の正門に出るので、第二は體育館から動物園前に出て、飲食店の間を拔けて東照宮の坂を下るので、第三は、工業館裏通りから精養軒脇の坂に出るのである、又、正門の右手にエスカレーターの乘場があつて、第二會場の染織館横迄空中に橋を架けたやうになつてゐるから、これに乘つて、悠々と池の端へ下りるのも面白からう、第二會場の正門は不忍辨天の前にあつて、

■東洋式鳥居形　に出來てゐる、これを入つて左に、池の上にある支那風の建物は日華貿易館で、各陳列會は、それと向ひあつた右手に半圓形を畫いて、最初にあるのが農業館、次ぎが運輸館、三番目のが染織館、其前にあるのが染織別館、次ぎが外國館、動力館、機械館と云ふ順である。機械館の次ぎにある赤い建物は臺灣館で、是等の諸館を巡覽するには先づ農業館から始めて、次第に次へと進むと、自然に他の館に移つて案内も何もなしに皆見終はることが出來るのである、各館の出品は、農業館は、全國の農産物を集め、中にも專賣局は、新式の機械を運轉して、自働的に卷煙草の出來るところを見せ、運輸

館は交通に關するもの計りで、電氣仕掛で變化する船路模型や、鐵道で日本一と云はるゝ田端驛のパンプヤード（貨物入替線）や、鹿兒島驛のループ線（螺旋線）の雛型なども出てゐる、染織館は各府縣の染織物を集めてあるところで、其前にある染織別館と共に、

■博覽會の華　と稱せられてゐる、殊に別館は、東京織物問屋組合と呉服太物組合が自費を以て建築したもので、安藝の宮島に擬つて、純日本式の建物が水の上に差出た光景は、一見爽快な感を與ふるのである。館内の出品は、三越や白木を初め、各々意匠を凝らして互に其美を競ひ、麗を爭ひ、人の眼を奪はんと努めてゐる、外國館も染織館に劣らぬ呼び物で、外國の變つたものや新しいものが澤山集り、動力館と機械館は名の如く動力と機械とに關するものを陳列してある、臺灣館は同地の特産品の外に、喫茶室を設けて臺灣美人が給仕をしてゐる、一碗の臺灣茶に、

■殖民地の氣分　を味ふも亦よからう。これで場内の見物が終つたから、裏門から場外へ出て、賣店で思ひ〳〵の土産を調へるも可からうし、又其附近を廻つて、エレベーター、農工商活動寫眞、鑛山模型等の興行物を見るのも可からう、以上述べた道順に依り、一日に見るとも、二日三日乃至はそれ以上に亘つて歩かうとも、夫は人々の心任せにするが能からう。

■青山の附屬會場　此處へ行くには、青山一丁目か同三丁目で電車を降りるもよいが、信濃町で四谷側入口に行くのが最も便利である、道路は八間幅で、その兩側は各種の飲食店及び賣店で、別に、

■**上野と大差**　は無い、約五十間ばかりて稍々左方に曲ると種苗株式會社設計の圓形大花壇がある、この周圍には腰を下ろして休む爲めにその用意が整つてゐる、此處から青山口に向ふ一路は盡く、興行物で、旅順要塞戰跡模型（七十二坪）活動寫眞、御即位大嘗祭資料模型、（約八百坪）諏訪湖模型、演藝館、グライダー（八幡の藪知らず、）空滑走機、古物陳列館、刺繍活人形、展覽場等で客足を引くに努めるが孰れも個人の經營になるものばかりである、更に花壇より右方葬場殿跡の背後には、

■**軍艦博覽會**　の催しがある。戰艦三笠の同大模型で、長さ七十餘間幅十二間、上甲板の設備等は實物同樣、加ふるに艦首艦尾に据ゑ付けた十二吋砲の運用を說明をしてゐるから、是非一覽の必要がある、又、二十五間の長大マストは圓筒形で內部よりも昇降が自由て、且つ裝置された探海燈は品川上野は勿論數十哩を照破するに足るのである。旅順戰跡もさること乍ら、

■**御即位式資料**　模型に今秋擧げらるべき大典を偲ぶことが出來紫宸殿始め禁園裡の模樣及その資料等一々古實に依つて史を繙くよりも早解りがする、その背後に信濃町、青山一丁目間の電車路に沿ふて數十間に亘る二條の飛行機觀覽臺が設置され、こゝに壯快なる陸軍飛行機の運用を望見する事が出來る、格納庫は四谷口、事務所の稍南東に造られ、此處より青山口に到る一帶の廣場が全部飛行場で芝浦の海軍飛行場と相俟つて進步したる快技を普く觀覽せしむるのである。

■各府縣出品物

■滋賀縣　陳列の總間數は四十五間で、出品物は左の通りである。

米(七〇〇)生糸(一〇)眞綿(五〇)陶器(一五〇)酒(五〇)醬油(五〇)茶(八〇)籐、檜、竹細工(二〇〇)
縮緬(八〇)麻布(四七〇)蚊帳地(一五)刺繍(一二)ビロード(一五)ビロード友仙(一二)木綿縮(四〇)
綿織物(三〇)

■栃木縣　出品總點數二千五百點、問數五十間に亘つてゐる、重なる出品物は、

織物(一六〇〇)麻(五〇)干瓢(五〇)陶器(一〇〇)漆器(一〇〇)紙(一〇〇)酒、箒、ブラシ、裝飾用
具(七〇)

■岐阜縣　總出品數千五百點で、

傘(一〇〇)提灯(一〇〇)米(一〇〇)陶磁石(一六〇)蠶種(五〇)縮緬(一五〇)絹生綫(一二〇)絲織物
(一八〇)菓子類等

以上は其重なるものである。

■新潟縣　出品總數四千點で、重なるものは、

米、豆、刄物、花瓶、銅器類、絹織物、木綿物、鰯、漆器、無名異燒物、家具類、鮭等

■熊本縣　間數十三間、總點數七百點で、重なる物は、米(俵米三十六俵、升米五〇點)と柑橘(百四十點)で、其他には繭、生糸、酒、醬油、茶、窒素肥料、カーバイト等である。

■愛知縣　三府を除いて一番廣い面積を有してゐるのは此縣である、間數は百三十九間、出品總數二千百六十七點で、出品物中には、建築裝飾部に陳列してある二開に四間半の麻木工場の摸寫など、其他重なる出品物を列擧すると、

米(九〇)麥(三〇)桑苗木(一八)蚕種(三〇)度量衡(七)樂器(二三)木材板材、加工竹材、木炭、菌蕈、
工業原料、林業品(種子苗、品物、寫眞)漁具、酒(一〇六)醬油、溜味噌、酢、飴、菓子、乾燥蔬
菜、燐寸、陶磁器(一八一)七寶(二四)琺瑯器、絹織物(六四)綿織物(二三三)毛織物(七六)雜織物、刺

繡、麥稈眞田、莫大小、金屬製品、紙類屏風漆器(二一六)佛壇佛具、文房具、貴金屬類、帽子、袋物、梳櫛、履物、扇、提灯、算盤、玩具、箒、桶、時計、家石燈籠、編網機、狆(一〇)鷄(二〇)

■千葉縣　出品總數三千三百點、間數八十九間であるが、何しろ一年の產額農產五千萬圓、水產一千萬圓に上る此縣の事とて、出品物も重に農水產が主になつてゐる。

農產品　總數千五百點その內米(四二六)麥(一〇二)菽大豆(一四八)落花生(一六六)蔬菜(一〇)果實(一二〇)煙草(三〇)種苗(二八)裝飾植物(四一)蠶種(二一)繭(二三三)糸眞綿(三二)家蓄(牛八、馬五、豚一〇)家禽(三〇)肥料(一〇)

水產品　總數八〇〇點その內鰹魚節(一二六)煎干(一二二)田作(九七)海苔(二五)

飲食品　總數三二三點のうち醬油(二七)酒(五九)澱粉(四二)菓子(四一)鑵詰(三〇)

染織工藝品　總數二七〇點のうち絹織物(三〇)綿(一九五)

林產品　總數二二〇點のうち主なるは木材、木炭等で其他下駄(四五)扇、傘等

■山口縣　出品總數千八百點で、教育學術品百七十點の內、度量衡器は全國に冠たるもので、又た透視液といふのは、エッキス光線的のもので、此液中に物體を入れると、骨格が透視して見えるといふ新發明品である。其他の物としては、

農產品　總點一七六、此の內米(六一)麥(二一)繭(八七)

林產品　總點一〇七、此の內木材二〇、楢炭三八、五倍子三三、竹細工等

水產品　總て一八四點で大羽鰯、煮干鰯、乾海苔、鱶鰭、鮑等が主なるもの

飲食品　總點二二八でそのうち酒(八七)醬油(五三)菓子(二二)漬物(二四)ミルクバタ(七)綠紅茶(三〇)等が主なもの、中にも綠茶は縣の山林に野生にして日下八萬圓の收穫である將來極めて有望なものである

化學工藝品　は總點三一二主なるものは紙(六八)陶磁器(萩燒小月燒で二三六)セメント等である

染織品　總點五一九、織物(四〇三)麥稈經木(七八)蚊帳(二〇)

製作工藝品　總點一九六主なるものは大理石細工品(二六)漆物(大津漆五五)赤間ケ關硯(六〇)櫛(二六)ナフキン等、

■北海道　拓植館の三分の一、即ち百坪の所に約五百點の陳列品がある、裝飾に意を凝らさず、粗大にして北海道の殖民的色彩を表さうと努めたさうである。

農産物一〇〇點（米、麥、大小豆、エンバク、裸麥、豌豆、菜豆、菜種、玉蜀黍、馬鈴薯、イゴマ、玉葱、林檎、蕗）

水産物　一〇〇點の中乾製品（身缺鯡、棒鱈、開鱈、數の子、乾海老、乾鮑、海産、スルメ）鹽器物（鹽鮭、鹽鱒、鹽鯡）海草物（ナガキリ昆布、折昆布、若布、天草、布海苔）肥料物（鯡、鱈、鰯、鰈等の搾滓、魚油）

林産物　一〇〇點（木材各種マッチの軸、タンニン）

飲食品（鑵詰各種、澱粉、ミルク、バタ、小麥粉、菓子、ビール、清酒）

化學工業品（肝油、セメント）

鑛物品石炭（コークス、褐鐵、硫黄、マンガン）

■埼玉縣　今回の出品物は主要物産に限つて陳列するので農産と、染織が重なるもので實用的織物の數は二千點、其れに繭蠶種、生糸、米麥、金物、米、酒、醬油、雛人形等で總數が四千餘點、全間數七十九に亘る、其中鴻巣産の雛人形は大阪博覽會にも出品した事があるがやさしい女の顔は京都の雛に劣るけれども、武者人形に至つては遜色ないやうである。

■長崎縣　水産物合計三百十一點の外に鼈甲、珊瑚細工品（三四六）密柑、枇杷繭等（二九〇）カステラ（六〇）馬（三）陶磁器（一二〇）椿油（二〇等）で全體が千二百點間數が三〇になる此縣の今回の特色となるものは珊瑚で近頃五島の沖に新珊瑚礁を發見したので産額も増したさうだ、鼈甲細工も年額廿萬圓に上つて此縣の特産物である。

■德島縣　此縣の特産出品は度量衡（五三點）藍（五二點）鳴門若布（四九點）絨織（九一點）炭酸マグネシヤ（六點）で是等は何れも他國にはあまり類のないものであるさうだ其他の出品は

葉煙草（五三）楮、三柳の皮（四〇）蠶種（六）繭（六五）生糸（一一）米（六二）麥（三〇）大豆（二〇）牛（二）鰹魚節（三八）乾海老（三六）煮干鰯（五七）鹽（三五）鮎鑵詰（三）酒（二八）麺類（一二）水飴（二）菓子（二四）紙（五七）ガーゼ（四）絨外の織物（七〇）リンネル（五）綿ネル（四）絨織圖案（五）足袋（三四）

■高知縣　出品物中縣の特產物とも云べき物は土佐紙に土佐節で殊に珊瑚の彫刻には伊太利式を用ゐて意匠を凝らしたものてある、其他出品の主なのは乾柿生絲、柑橘、尾長鷄、聲鳥、石灰、セメント等て其の中セメントは年々百萬圓位の產出があつて郡の重要物產てある又聲鳥は尾長鷄と同じ位の大ささて一度鳴いた後其の聲が五分間も餘音を引く珍らしい鳥てある。

■香川縣　此の縣の出品物は漆器(九五)彫刻(四二)醬油(一一六)麵類(六〇)家具(二三)米麥(七六)マッチ(七)紙(二八)麥稈眞田(五九)タオル(二八)鑄物(三五重に火鉢)履物(七八)扇(四〇)傘(七八)魚類の子(三一)乾魚類味噌漬(五)竹細工(一一)等て總數八百餘點、出品人は七百餘てある縣の特產は讃岐塗て全國に聞えてゐる。

■宮城縣　此縣からは三千圓餘の縣費て中條博士の設計の松島全景大模型が出てゐる事は別項記載の通りてあるが、其の他の出品物は

米(一二)豆(一〇〇)梨(三〇)蠶種(二二)繭(一一六)蠶絲(一六)眞綿(一一)家禽(二八)木材(六)木炭亞炭、水產物四〇八點(節類、乾鮑、鰯、海參、田作、雲丹、明骨、鹽辛、海苔、石花菜等)

飲食物　一八二點(酒、醬油、麵類、氷豆腐、飴、菓子、干柿、鑵詰)

作工品(埋木細工、塗物、石疊、糊、毛筆硯、白墨、履物、竹行李、傘、玩具、竹細工)

建築裝飾品(スレート、敷石、疊表、花莚、家具)

紙電氣化學製品、(カーバイト、織物、染物、蚊張、敷布、石膏)

■靜岡縣　大正博に對する縣の豫算は一萬八千圓て其れに地方の團體等が自營て縣に附加して裝飾や陳列に用ふる費用を計上すると五萬八千圓に上る、自費て經營する重なるものは日本漆器店、靜岡縣茶業組合聯合會、柑橘同業組合、醬油同業組合、生薑糸瓜、落花生同業組合、遠江織物同業組合、日本片染株式

會社等其總出品點數が五千二百、總坪數三十餘坪に上り三府をのぞいて愛知縣の次に位する、縣からの重な出品物は茶（三五〇）遠江織物（六〇〇）漆器（六〇〇）紙（二〇四）柑橘（三〇〇）米麥（五〇〇）生糞絲瓜落花生（五〇〇）水產物（二〇〇、重に鰹魚節）醬油（一〇〇）椎茸（一〇〇）等て名物としては山葵漬、興津鯛、鯛飯、密柑等てある此等の出品の陳列棚として如輪木に漆塗を用ゐ、猶看守は男五人に女十五人て縣て募集して連れて來たのもある。

■石川縣　重要出品は漆器（七〇〇）陶器（一五〇）羽二重（一〇〇）刺繡品（一〇〇）染物（一〇〇）絹織物（一〇〇）麻織物（一〇〇）金屬品（一五〇）水產品（三〇〇、重にキンコ、鹽鱈、鱶鰭、干海老）等總點數三千總間數九十に亘る此縣の他縣と異る點は農產品の一つも無いと云ふ事てある。

■茨城縣　總間數は七十三間て其の數は三千五百點に上つて居る其の中最も大多數を占て居るのは農產物て米（五〇〇點）大小麥（四〇〇點）が重要をなして居る此の縣の特產物は蒟蒻、寒水、石細工、煙草（二〇〇點）位の物て其の他蠶種生絲、木炭、鰹魚節、鹽干、茶、落化生、佃煮、干瓢、酒、醬油、ソース、和紙、陶器、煉瓦、眞珠、結城紬等に常陸銅山の銅が陳列してある。

■山梨縣　重なる陳列品は次の如くてある。

繭紙（一三〇點）蠶（一五〇點）絹織物（三五〇點）染物品（三〇點）足袋（一〇〇點）水晶細工（二〇〇點）インラン革細工（一五〇點）アケハタ硯（五〇點）菓子（七〇點）コロガキ（五〇點）勝栗（四〇點）葡萄酒（三〇點）清酒（三〇點）醬油（二〇點）和紙（二五〇點）履物（六〇點）教育品（二〇點）

■長野縣　陳列間口六十五間、米麥（七六五點）蠶種（三五五點）繭（四九二點）生絲等（一二〇點）眞綿（一〇〇點）教育學術の各品（一一四點）人參（六〇點）箸（一

五點）清酒（七一點）菓子（八八點）バタ（一點）乾杏（二一點）洋桃鑵詰（六四點）ワサビ鑵詰（二八點）陶器（三五點）足袋（二〇點）鋸（九二點）檜笠（三點）蘭サナギ油（五點）醤油（二九點）其外で、看守としては美人八名を選んで連れて來て、大いに信州美人の美を無言の裡に誇りつゝある。

■**巖手縣**　特産物は南部鐵瓶（二五〇）に南部馬（一〇）南部桐等で中にも鐵瓶の如きは堅牢と金氣が出ないと云ふ特徴に今回は特に巧妙なる意匠を凝らして頗る優雅なるものを出品して他縣の擬物を驅逐する意氣組てゐる、其他の出品物は、

米（五〇）繭（五〇）キャベツ、馬鈴薯、百合、林檎（三〇）干スルメ、鰹魚節、干鮑、陶器、傘、杓子、竹細工、南部縞、麻布、氷豆腐、木炭、椎茸等の外に紙氷嚢の珍らしい物がある賣店は盛岡實行協會で依託販賣の組織で賣買するさうだ

■**福岡縣**　總數九百三十點て全間數三六て、出品は左の通りてある。

清酒（七九）博多織（九六）久留米絣（一四九）久留米縞（二〇）久留米絞（三〇）足袋（二〇）藍胎漆器（二七）博多人形（二〇）和紙（九三）木蠟（八二）花莚（三二）水産品（八三、蝗剝鰕、摺鰕、干玉筋魚）米（六一）提灯（二六）石炭（七）鑄物（五〇）

■**京都府**　の出品は重に京都商業會議所内の出品協會の手に依つて計畫されて府の補助はあるが出品協會の仕事と云つてよいのてある、京都には今年の御大典に博覽會を設建する積で豫算まで計畫したのが立消えとなつた、そこて其の博覽會に出品しやうと巧を凝らした出品物をすべて大正博に陳列することにしたのてある、總陳列の間口は二百八十三間半て其の内重なる物は染織品（一三三間）てある事は勿論て其の他教育學術品（二五間）農業品（六七間）林業品（五間半）水産品（二間）飲食品（九間半内茶三間）鑛業品（二間重なる物は砥石）製

作工業品(四〇間)建築裝飾品(一三間)衞生品(二間)等である。

■山形縣　は東北地方では一番廣い陳列場を要して居る總間口は七十間で總出品點數が三千二百で重なるものは農産物の米麥大豆の三百點に蠶紙の三百點である次に生絲三五點果物(林檎、梨子、葡萄、櫻桃(二五〇點木材(ケヤキ、桐)六〇點清酒一二〇點醬油七〇點菓子一〇〇點罐詰三〇點陶器一一〇點麻布紙織物八八〇點紙類二六點金屬器三五〇點漆器一八〇點履物類二〇〇點指物品一〇〇點玩具類四〇點等で看守の女も縣より連れて來てゐる。

■美術館の繪畫彫刻

其一　日本畫

日本畫の出品總數は一千四百二十四點であつたが、其中合格したのは實に左の百六十八點である。右の中府縣別の記入なきは東京である。

○春日詣、尾形月耕○東宮殿裏恩愛絶雲髮花額金歩搖(双幅)萩生天泉、○說法(三幅對)藤井大星○蟬の茶屋、西村青歸○くれがた、石田梅齋○土手の雪、橋本邦助○夏景山水、岡田蘇水○秋景山水同上○春秋山水(双幅)大阪矢野橋村○蓬贏(三幅對)鄕原藤一郎○おとゝい(二曲半双)淺見翠蛾○松林山水、愛知稻垣錦莊○木枯、岩崎湖堂○雨後、大塚晃峻○春日閑居、大瀧雨山○眞葛ケ原、島崎柳塢○花吹雪、大阪坂田耕雪○春日うらゝか、夏水かゝる、秋風わたる、冬峰ふゞく(四幅對)大島佳山○日永(四曲額付立)三井萬里○朦月夜、若林錄三郎○春の山路、保間素堂○山國の夏、同○初冬、同松嶺○朝霞、伊藤白陽○平等院の戰、山川永雅○山水、星陸谷○偶座、須田霞亭○繪合(六曲半双)池田蕉園○妖靈星、池田輝方○松景山水、横山松雲○松に梅(對幅)橋本青水○觀瀑、福田浩湖○秋雨新霽、同○うらゝか、歌川國峰○秋晴(二曲一双)中倉玉翠○鴨(六曲半双)平福百穗○暮雪(雪二題)發(同)(双幅)山田敬中○鶴(二曲一双)鈴木華村○眞是我意中、大林平萬樹○廓の宵同○觀光客(二曲半双)川端龍子○春郊(同)小林吳橋○繪卷物、前田青邨○鴨綠江の雪、三浦廣洋○早春船越天演○海邊○秋風(二曲一双)木村武山○小町踊、田代古崖○兄の嬶嬶、福田眉仙○箙の梅(二曲一双)小山榮達○雪、高橋菱雨○そよかぜ、菊池華秋○寒鳥、眞野曉亭○つゝぢ(六曲半双)長霞外○朝露、都筑眞琴○噂のまゝ(双幅)山村耕花○花のひとり(葵)上原桃畝○竹館嘯月、岸波柳溪○みかん、橋本永邦○春谿(二曲一双)池上秀畝○芝居のお七、鏑木清方○木場の娘、西田青坡○雜司ケ谷の夕、門井掬水○柳と牧牛(三幅對)永田春水○若き妻、村瀨秀月○柿の價、松野忠洲○春の

雨、川村東陽〇山家の月、同〇秋の園、伊藤綾春〇祈誓、北上峻山〇雨の清水、上原古年〇霧の加茂川、同〇黎明、綱島靜觀〇春宵(二曲一双)筆谷等觀〇更け行く里、藤岡紫峰〇海邊、大西南山〇隅田川、小山光造〇水煙(二曲一双)伊藤玄海〇閑庭の四季(四幅對)山内多門〇田幕ならぬ閑、東京柿内青葉〇曉靄、大智勝觀〇晩霞、同〇秋(六曲半双)越塚友邦〇お約束、栗原玉葉〇夕榮(二曲半双)福永公美〇菊もみぢ(二曲一双)平田松堂〇都の春、松本華羊〇殘照、加藤國堂〇梅咲(六曲半双)堀尾水田〇雜木林の秋、芝山翠圃〇殘雪、宮田重春〇あひる(二曲半双)泉二橋〇湖畔の雪、廣瀬東畝〇花の下蔭(二曲一双)得重景山〇花ぐもり、益田玉城〇出現、河合英忠〇青綠山水、勝谷米莊〇南蠻人來港、高島岑楓〇梅雨晴、村上鳳湖〇萬綠、登内廣堂〇秋聲、石井天風〇つゝぢ(六曲半双)堀内玉舟〇遊鯉、吉田東港〇想思(二曲一双)村瀨義德〇孔雀(六曲半双)根本雪總〇わか葉(双幅)磯田長秋〇椿の春と人(二曲一双)鴨下晃湖〇朝、倉石松畝〇溪山新霽、同〇川風、荒木柳城〇榛木、大塚庄近〇濱邊の春(二曲半双)山口錦洲〇春夏三題秋冬、(六幅)同熱田魚市場〇河原雨城(二曲)〇枇杷青物市揚(二曲一双)愛知藤島華僊〇伏姫、工藤觀古〇層畵積翠雪山旅思(双幅)愛知小野寺梅丘〇眞畵(二曲半双額仕立)長野草風〇平治の賴朝(二曲一双同)伊藤紅雲〇蜜柑の里、京都伊藤琴川〇桃花鄕(二曲一双)橋本關雪〇寒山行路、同三宅吳曉〇松林觀瀑、京都池田桂仙〇初秋、同井上文揚〇まき場、同片山松雲〇生蘇の日、同宮田司山〇加茂祭、同原左泉〇鳩ポッポ、同松村梅叟〇北山杉、同山口松齊〇驟雨來る、同平井春仙〇舟路の夏、同同〇朝霧(六曲半双)同伊藤鶯城〇雪の加茂川(二曲半双額仕立(同猪飼嘘谷〇狹穗姫、同田畑香〇小春日、同中臺秋替〇籠城の朝(二枚續き)同伊吹石〇黃葉散の日、同小林霞村〇暖き日、同内海紫潮〇鳩(二曲半双)同澤白鷗〇さむき日、同岡本芳水〇閑寂(二曲一双)同渡邊公觀〇夏蜜柑、同伊藤春山〇ハンバーク(二曲一双)同長瀨翠塘〇紅葉淡月、同高畑文石〇春淺し(二曲一双)同久保田竹文〇早春、同同山元春汀〇松、同玉舍春輝〇遲日、同林文塘〇しぐれ(双幅)同庄田鶴友〇收穫(六曲半双)同柴田晩葉〇柿若葉、同古谷一晃〇待旦、同鄭聚裳〇こすもす、同中津川凉風〇宵(夏)同不動立山〇犢、同大村廣陽〇早春、同小西長廣〇口べに、同有山白崖〇川添ひの里、同川本參江〇黃昏(二曲一双額仕立)同高山春凌〇吹雪、同西井敬岳〇媼、同菊池契月〇深雪、同上村松園〇花のたより、東京河崎蘭香〇水里山水同湯田玉水〇明麗、京都西山翠璋〇藻の香、同井口華秋〇樹下高嘯、東京高取稚成〇靜淵、同五島耕畝

其二　西洋畫

西洋畫は出品數千五點であつたが、監査の結果百五十六點合格した、其中には本書の挿畫に筆を揮つた、服部亮英氏も交じつてゐる、合格者及び作品題目左の如し。

〇暖國之春、東京多々羅義雄〇石灰小屋、田舍、望月省三〇局の椿、夜の花、吉田豐〇川岸、金關春次〇冬の光り、白倉欣郎〇花壇、名越豐〇靜物、迫り來る夕の色、松村巽〇冬近、吉田一郎〇日ざかり、川島謙三郎〇幕あひ、久保篤敬〇自畵像、牧野司郎〇蔭の日向、相模金三郎〇早春、奥瀨英三〇大島の見ゆる日、小寺健吉〇かよわき日なた、岡部虎雄〇窓ぎは、松永津志馬〇靜物、鈴木

吟子○男の肖像、田口眞作○靜物、富體、金澤重治○初夏、工藤三郎○雪の赤城山、裸田溫一郎○秋の山、秋の溪流、三宅克己○毛皮の外套、アーミニアンの肖像、伊藤猶一郎○おだやかな日、麓の村、跡見泰○冬の終、燒倉、小林眞二○湖畔、段々畑より、海老名文雄○雪、向日葵、香田勝太○砂丘、のどかな日、相田直彥○小春日、大野要三○人ごみ、秩父街道、櫻、小糸源太郎○看護婦裸體、鏡臺の前、靜物、黑いビン、熊岡美彥○朝の暇、吉村芳松○靜物、北島淺一○川上四郎作春佐々貴義雄○大奥振り、大塚豐○薄日さす花園、散歩みち、日蔭棚、吉田健夫○菊畑の子供、坪井亥次○河邊の雪、休める舟、佐々木倉太○馬子唄、寺澤幸太郎○夢路、歌かるた布目敏行○春の雪松原一風○正午頃、瀧澤邦行○雪のハンノヴアー、又木享三○河岸、鈴木淳○夜の習作、井上眞○殘りの光、宮武辰夫○ちぎりては、雨後の菊、清水良雄○初春、佃武昭○山崎清次郎作密雨、土岐芳助○切り組、西村新一郎○大島の冬、曇りたる日、大島のある夜、赤城泰舒○靜物、井上清一○靜物、長濱武一○教室の南、清原重一○肖像、樂人、安田稔○柿の村、木蔭の人等、大野隆德○仕度、湯ケ島にて、三上知治○花と果物、今純三○蜜柑畑、川北元英○蜜柑の樹の蔭、吉田苞○秋の光、殘雪、夜の靜物、横井禮一○靜物、鈴木良治○越中島の立ちん坊、靜物、後藤工志○夕暮、佐藤哲三郎○機關車庫、靜物、賀茂正房○高原の早春、丸山晩霞○わかき日、渡邊文子○午後の室、古屋浩藏○てうじ、永池秀太○雪のあした、山田實○島崎村、服部亮英○冬の山、高村眞夫○八つの夢、森田太三郎○靜物、中村勝治郎○秋晴れ、冬の日、雪の朝、牧野虎雄○伊豆の春、安達健○赤松の林、中村元磨○曇り日、角野判二郎○殘雪、筑紫武門○ロシヤ帽、石川伊十○窓より、荒井陸男○化粧の後、菊、梶原貫五○カーテンに、宮芳平○雪解、牧場の一隅、辻永○早春、眞山孝治○漁村の斜陽、高橋虎之助○ロンドン、ベトテの橋、武内鶴之助○漁村の眞晝、秋晴、石川寅治○春、松山省三○水ぬるむ、葭苅、池田永治○夜店、淺井松彥○つれ〴〵、溫泉場の裏、中澤弘光○風景、榎本己之助○雪のあした、大橋康邦○乳、よなべ、三國久○少女、靜物、中村彝○M氏の像浴後、白瀧幾之助○人形、長原孝太郎○淺春、矢崎千代二○自畫像、森岡柳藏○椽先、櫻井知足○靜物、岡野榮○宵、平岡權八郎○落陽、夏の海邊、山本森之助○春の海邊、神奈川劉榮楓○晝まへ愛知加藝靜兒○赤い日傘、稻こき、並木道、京都太田喜二郎○霧晴れ、安藤靜也○淀の城、山下繁雄○風景、大阪廣瀨勝平○公園の一部、高橋文三○馬來の裏町、橋本木蓼（鑑査員の出品物は記せず）

共三　彫刻

彫刻は出品總數百八十六點の中、五十五點だけ合格したのである。

○犬種タックスハンド（石膏）矢守一生○きらはれた女（大理石）夜（石膏）祈願（大理石）北村四海○薄肉婦人像（鑄銅）小笠原長幹○京都葵祭勅使の一部（木彫）佐藤光邦○達觀（同）開發芳光○弭の調（同）松尾朝春○ゆげ（石膏）薄肉肖像（同）石川鶴治○供槃（木彫）三木宗策○ブルターニュ婦人小刀磨き（鑄銅）スペイン踊子（同）女の頭（同）水谷鐵也○肉のほゝゑみ（石膏）川上邦世○髮（鑄銅）加藤南山○女勞働者（石膏）老婆（大理石）かなしみ（石膏）北村正信○のどか（鑄銅）田嶼一舸○山羊のむれ（石膏）ちゝ（同）ていれ（同）池田勇八○酒仙（木彫）關野聖雲○萬里子（大理石）武石弘三郎○密教徒（木彫）佐藤朝山○朝（土）河村目露二○なげき（石膏）胸像（同）活歩（鑄造）國方林三○乃木將軍（石膏）渡邊長男○影（同）川崎繁夫○力（同）女の顏（同）老人胸像（同）堀進二○ヤギ（木彫）上田直次○大隈伯肖像（鑄

銅）畑正吉○想（大理石）幼き愛（同）角取助治○玉乘の女（石膏）戸張孤雁○影（大理石）露（石膏）晃（鑄銅）藤井浩祐○絶望（石膏）新田藤太郎○濁り（同）吉田三郎○猿（同）都賀田勇馬○追夢（同）かるき獣想（同）井上久次○絶望（同）怖（同）建畠大夢○霹靂（同）五月霽れ（同）三條橋（同）小倉右一郎○萠えたつ春（木彫）太田南海○薄肉馬（土）後藤良（監査員の出品は除く）

以上の他に各監査員の出品もあるので、實に毎秋開催される文部省の展覽會にも優るべきものがある。

■特設館

特設館は各陳列館とも出品の申込が多いため到底收容し切れぬと慮つて獨力で陳列館設置を願ひ出たものゝうち許可になつた分てあるがその位置を示すと。

△第一會場

竹の臺大工業館北側に集鴨院模型、淺沼寫眞館、後藤毛織物陳列館、同所西側に巽畫會陳列館、文展優勝者展覽會、同西側工業館裏へ茨城、栃木、長野三縣の石材陳列場、博物館に日本體育會の體育館、噴水より西へアスファルト製品陳列館、林業館裏手に篠崎インキホール、古代式書院、小笠原島館及び附屬物產陳列場、菜室造材陳列場、宮城縣の松島公園模型陳列館鑛業館、裏手にレート化粧品陳列館、竹の臺東工業館裏手に白煉瓦陳列館、鑄鐵製品陳列館、半襟陳列館、車輛材陳列場、遞信省の無線電信、天體觀測望遠鏡陳列館、蓄音器陳列館、新聞縱覽所、迎賓館北側には平林美都の庭先門、木村清兵衞の茶室、同西側には矢崎貞三の茶座敷、同南側には山岸廣吉の茶室、凌雲院北側には醬油陳列場、倉庫陳列場、盆景陳列場、生花陳列場、ミツワ化粧品陳列館、同東側には法正會、盆栽背景、新潟縣の盆栽、沖繩縣其他の溫室、美術店東側にも溫室及花壇、拓殖館北側に樺太廳のアイヌ館、同南側に關東都督府無料休憩所、兩大師前に東京市の東京館、新公園に朝鮮館

△第二會場

辨天堂の入口に日華貿易品陳列館、農業館北側に廻轉稻こき機、運輸館前に輕便ガソリン發動械船輕便自動ボート、外國館附近に高田商會の冷藏庫、米國貿易商會の外國機械、動力館西側にロータリー機關室、機械館西側に、大阪府の揚水機、清水商會の精米機、玻璃製造實演場、瓦斯應用玻璃器製造實演場、常見の精米機、臺灣館南側にロータリー鑿井機、池の端南側に水難救濟器陳列館、農業館前の池中に伊勢灣摸型陳列館、自働風車、

■右の内最も堂々たるものは東京館て、セセッション式にヌーボー式を加

味した建物で四方の隅には夫々塔があり入口正面の中央二階建の上にドームを置き左右は軒高二十三尺の平家造りで本館が二百三十二坪、入口の通路には路傍樹を植ゑ込み左右に花壇が造られてゐる、亦日華貿易陳列館は日華兩國間の貿易發達を目的とし中華民國から一萬圓、東京市から五千圓補助して建たもので坪數百九十三、中央は二階建とし二階に貴賓室が設けられるそして此の館には支那向の輸出品と支那から來る輸入品が陳列されてゐる。

■松島公園模型　は宮城縣が數年來計畫して來た大規模の松島公園の模型で公園に就ては宮城縣が日本の誇りとして世界に紹介する積りでゐるのだから模型の規模も頗る宏大で本物の松島に遊ぶの觀がある、小笠原伊豆七島陳列館では檳榔樹で造つた家が觀物で、此の家はタコノ木の編物で壁を張り休憩所には歸化人の娘がゐる。

■餘興演藝館　演藝館は事務所の背後にあり、面積四百四十坪、二階建の壯麗なもので、舞臺は間口九間四尺、奥行五間で六尺に四尺幅の本花道假花道が取り付けられ、三越、松坂屋、大日本ビール會社、三輪等の寄贈になる緞帳の絢爛と相俟つて天井には岡田三郎助揮毫の繪が陸離たる光彩を放つてゐる、演藝としては最も呼聲の高いのは

■芝居と藝妓手踊　で開場當日たる二十日より三日間は吉例に依つて式三番を帝劇の梅幸、幸四郎、宗十郎が演じ「高砂丹前」一幕を高丸、丑之助、「元祿花見踊」一幕を高丸、一鶴、丑之助、由次郎外二三の少年俳優が演じた、それから二十三日より五日間を米藏、米吉、男寅等二十七日より月末まで「紅葉狩」

一幕を市村座の若手連が晝夜二回宛大車輪で勤め、四月一日からは愈都下各所の藝妓手踊で同じく五日間宛芝居を入違ひに演ずるのであるが、之れは土地一流の藝妓が、孰れも博覽會にちなんだ新曲を、二三十名づゝ腕に撚りをかけて踊り拔くので平日にては見られぬものだけに

■最も人氣を　呼んでゐる皮切りは下谷で長唄「御代の花」「天女の舞」手古舞の上下二卷に分れ永井素岳の作歌に岸澤式佐の作曲、六鄕新三郎噺子、花柳德太郎振付けて背景は繚亂たる櫻花に青葉楓を配らつた深山の春氣色「夫れ花の色は東臺の雲に聳え、蓮池の底に沈む、浮き立つ春も半して、櫻に競ふ花筐」と地方の囃子に連て艶な姿を見せ、次が赤坂で曲は半井桃水作の長唄「調布」同常磐津「忍び詣で」岸澤仲助の節付け藤間藤藏の振付てある、第三番は富士見町で竹柴新吉新作の「花やかの姿も對に女奴振り出せふり出せ富士見町、ふじを後に上野の山へ、振り込めふり込んだ、對の姿もはてやかに、女奴の出立ばえ……」と

■奴姿の意氣　なところを見せ次て下の卷として竹柴金作作長唄「四季の賑」は極めて花やかな場面で之れも藤間藤藏の振りに岡安喜三郎の節付けてある、以下は小石川、新橋、牛込、麻布、芳町、芝浦、神田、柳橋、新富町、淺草、四ッ谷、日本橋、同朋町の順である。

■飲食店と即賣店

飲食店並びに即賣店は第一會場の工業館と美術學校との中間廣場に於けるも

のが、その大部分を占め、次いで美術館附近及び第二會場の池に沿ふて軒並に設けられてある、それを記すと。

第一會場

幕の内、鯛めし、臺灣喫茶、日本料理、うどん、西洋料理、サイダー、魚川岸式辨當、鮨、ビヤホール、喫茶ミルク、江戸料理、汁粉、牛鳥料理、化粧室、伊勢名菓、エハガキ、タバコ、そば、喫茶、生蒲餅、そば、菓子、水菓子、甘酒、蒲燒、川魚料理、日本料理(豆腐)廣島餅、和洋料理、燒蛤、行當り辨當、お佃料理、水菓子、豚料理、笹餅、茶業組合休憩所、太々餅、エハガキ、蒲燒、甘酒、ミルクホール、玉川鮎、バー、小料理そば、セイロン喫茶等(約六十軒)

第二會場

ビヤホール、上野精養軒、カフエー、菓子、ビヤホール、外國飲料、鮨、赤福餅、エハガキ書籍、日本料理、氷菓子、氷庫、煙草、煮山椒、繪ハガキ、玩具等約三十軒、合して九十餘軒にも達してゐるのだ。

■廳府縣即賣店　は第二會場の池の端東、南、西の半面にあるが其の特色は軒下に共同道路を設定し觀覽者は晴雨に關せず全國各府縣の即賣店を縱覽し其嗜好と趣味とに適合せる各地の重要物產を購求するを得るとにある而して

■即賣店の區劃　は各府縣坪數前當の便宜上東より南西に向つて第一號より第五號迄に分ち第一號第二號の全部及び第三號の一部は東京府に配當せられた區域で

△三號館　佐賀、秋田、福岡、岡山、香川、愛媛、沖繩、北海道、廣島、富山、山口、石川
△四號館　岐阜、山梨、滋賀、福島、岩手、三重、山形、鹿兒島、宮城
△五號館　大阪、愛知、神奈川、長崎、新潟、埼玉、千葉、群馬、茨城、高知、長野、兵庫

尙ほ此の即賣店の配當を受けし三十一府縣の中比較的店舗の宏大なるは大阪府の間口二十間奥行四間と愛知縣の間口十五間奥行五間半とてある。

大正博覽會々場内に建設せられたる東京組合新聞縱覽所は市内日刊新聞組合二十社聯合の催に係るもので、位置は場内最好適とも云ふべき正門の手前を右に摺鉢山の角を左に折れて博覽會事務局と迎賓館の前通りを一直線に東京市特別館に至る四ッ角、教育活動寫眞館の北隣に在る間口五間、奥行十間の最新式建築で東南隅の一角は七間の高塔巍然として中空に聳え確かに人目を索くに足る、所内には組合二十社各自の考案を凝せる六尺に三尺の大招牌實に美觀壯觀を競ひ、十四脚の大テーブル上には各社の新聞を備へ付け且つ接待茶の用意もあつて、十四五の少女は甲斐々々しく給仕の務めに當り何人を論ぜず隨意に縱覽休憩せんことを歡迎しつゝある。而も南隣には活動寫眞あり、北隣には蓄音機あり、前面には生蕃の可笑き唄を聞くべく、後方には藤井の望遠鏡を觀るを得るので、寔に好位置と稱すべきである。

■博覽會と大日本ビール會社

飲料界の覇王とも稱すべきエビス、サッポロ、アサヒ、ビース、トウキョー、ミユンヘン、シトロン等のビール及び飲料水の製造元たる大日本麥酒會社は、博覽會工業館、飲食部中に同社製品を螺旋形の棚に陳列して觀覽者に其種類を展覽せしめてゐると共に、一方ビーヤホールを美術館右側に設けて芳醇なる中味の紹介をしてゐる、同社は資本金一千二百萬圓、麥酒の製造場としては關東に目黒工場、吾妻橋工場、關西に吹田工場、北海道に札幌工場がある、目黒工場はエビスビール、吾妻及び札幌工場はサッポロビールを、吹田工場はアサ

ヒを製造しつゝある、亦程ケ谷には飲料水工場を有してゐる、而して四月一日より新たにリボンタンサン、リボンラズベリーを製出販賣したが、流石模範工場の製品だけあつて、一飲直ちに清涼を覺え爽快極りないのである。同社は他の麥酒會社が唯一の原料たる麥芽及び葎花を外國產の精製品に仰ぐに反し、種苗を內地に播植し以て製造して、同社の一年の輸出額は總額の八割五分を占めてゐる、金額に換算すると、約百萬圓內外で、目下東洋第一である、愛國者は須く是等の麥酒を愛用して貿易の逆潮を防がねばならぬ、吾妻橋工場及び目黑本社は庭園廣く、宴遊會などには至極適してゐる。

■博覽會と東京瓦斯會社

東京の闇を電燈と共に照し兼ねて從來の薪炭を經濟的に壓迫しつゝある所の東京瓦斯株式會社は、其副製物として、ナフタリン、クレシン、しみぬき油、クレオソート油等がある。ナフタリンとは瓦斯樟腦の事で殺菌消毒に至極適當な物で、從來の高價な樟腦を用ゐるよりも大いに經濟的且つ衞生的で本箱、箪笥長持、骨董品、蒲團、毛皮、洋服等の中に入れて蠹魚の害を防ぐと同時に夏季の害蟲たる蚤、蚊、蠅の如き流行病の媒介を爲す諸蟲を驅逐すべきで、それには粉末、並びに錠、球の三種がある。クレシンは目下高田商會一手販賣に屬し消毒藥中最も有効な物である。しみぬき油は家庭經濟用として、從來の輕油等に比して精製方法に於て非常に進歩したるもので、地方への土產には至極適してゐる。又クレオソートは木材の防腐劑として建築に缺くべからざるもので、

恐るべき白蟻の侵害を防ぐに頗る妙である。博覽會に對し、工業館に瓦斯事業の一覽を統計に示したる額を出品し、且つ家庭に於ける瓦斯使用の實況を美麗なる人形を以て示してゐるが、頗る好評で日々人の山を作つてゐる。

■博覽會と大日本製糖會社

同社は今回の博覽會を機として、砂糖の種類を公衆に示さんが爲めに、特に工業館飲食部に同社精製の代表的砂糖十五種を瓶詰として出品し、絶えず之れに五色の電光を放射し且つ、出品棚の上より通路に向つて、强力なる探海燈を回轉し、觀覽者殊に地方人士を驚かしつゝある、尙協賛會主催の餘興活動寫眞場に於て、同社の內地（小名木川、大里）及び臺灣工場の作業狀況並びに臺灣に於ける大農法に因る甘蔗壓搾の實況を內地人に示してゐる。寔に歡迎すべき催しである。

■博覽會と東洋汽船會社

東洋汽船株式會社では、今回の博覽會を機とし、國民の海軍思想を養ふ一端にと、其所有船、天洋丸並びに香港丸二隻の實物の四十八分の一なる模型を第二會場中の運輸館に出品してゐる。

若し諸君が洋行しやうと云ふ場合には、何うしても汽船の便をはからねばならぬ、依て信用するに足る汽船會社を擧げると、東洋汽船株式會社は麴町區有樂町一丁目一番地に在り、

■桑港航路　には天洋、地洋、春洋、日本、香港の五船を用ゐてゐる、今其總噸數を擧げると。

天洋丸（並びに地洋春洋）　二二、〇〇〇噸
日本丸（及び香港丸）　一一、〇〇〇噸

て、天洋丸姉妹三船の構造概要は、

全長	五尺七十五呎	幅	六十三呎餘
上甲板より深さ	三十九呎餘	實馬力	一萬六千八百五十馬力
總噸數	一萬三千五百噸	機關	タービン式三軸
速力	二十一海里	一等客數	二百六十二人
二等客數	五十人	三等客數	一千人

設備の點に至つては、毫も遺憾なる所なく、「浮べる宮殿」との稱さへあるのである。又

■南米航路　には、安洋（一八、五〇〇噸）紀洋（一七、二〇〇噸）靜洋（一三、八〇〇噸）の三船を用ゐてゐる。安洋丸の構造概要を述べると、

全長	四百六十呎	幅	六十呎
深さ	四十呎六吋	總噸數	九千四百噸
速力	十五海里	救命艇	十八隻各六十一人乘
一等客數	三十人	二等客數	五十人
三等客數	六百三十八人	機關	バーソンス、ギヤード、タービン式

■同社の營業部　出張所、代理店等を左に記載すると、

營業部　横濱市　山下町七十五番地

出張所
- 横濱市　山下町七十五番地
- 神戸市　京町八十一番地
- 香港　キングス、ビルヂング
- 桑港　マーケット街六二五、マーチャンツ、ナショナル、バンク、ビルヂング
- 門司　三井物產株式會社門司支店
- 布哇ホノルル市　キャッスルアンドクック會社
- 墨國マンサニーヨ港　墨西哥ナショナル鐵道エフ、エフ、ガルザ

代理店

墨國サリナクルス港　テワンデペック鐵道會社エム、デル、バーリオ
秘露國メキシコ市　エッチ、シー、ヂンキンス
秘露國カイヤオ港　ダブルユー、アール、グレース商會
秘露國リマ市　ダブルユー、アール、グレース商會
智利國アリカ港　ナイトレート、エージエンシース
智利國イキケ港　ダブルユー、アール、グレース商會
智利國バルバライソ港　ダブルユー、アール、グレース商會
智利國コロネル港

■無線電信　當會社の重なる船には、何れも無線電信局を設置してあるから、遭難其他不時の災厄を未然に防ぎ、且つ絶えず陸上との通信連絡があり、又之れに依り、海上新聞を發行して、旅客の旅情を慰めてゐる、實に理想的船舶である。

■博覽會と大正生命保險會社

最近創立せられた保險會社の中で、最も迅速の發達を示したものには即ち大正生命と擧げねばならぬ、同社は社長伯爵柳原義光氏、專務取締役岡烈氏に配するに敏腕を以て聞えたる金光庸夫氏を取締役兼支配人としてゐる、其設立の趣旨とする所は保險料積立金の全部を以て帝國公債を買入れ國債の消化に努め保險本來の目的以外に我國債政策に貢献すると共に會社資産の安固を圖つてゐるのである、而して利益の大部分は株主配當に先立ち之れを保險契約者に現金にて配當する定めで、斯界に一新機軸を出し且つ不可抗力及び他の生命保險會社の最も嚴重に制定する所の旅行職業に對しても無條件にて支拂ふ故に譬へ被保險者が自殺するが如き場合にも、三年以上の場合には保險金を支拂ふ等の特長を有してゐる。同社は大正二年五月の創業で、日甚だ深からざるに拘らず最近の契約高は實に一千萬圓に多きに達してゐる。博覽會中に觀覽者休憩所を作

り、窈窕たる美人をして喫茶の接待をなさしめ、觀覽に疲れた足を休ませてゐるが、甚だ我意を得たる所である。

■博覽會と拓殖銀行

本行は北海道に於ける拓殖事業に對する唯一の金融機關で、東京では日本橋區元四日市町に支店を置いて本店並びに各支店出張所との連絡を保つてゐる、資本金は五百萬圓、最近の積立金は百三十一萬圓である、同行は拓殖事業資金の需用に應ずる爲めに拓殖債券を發行してゐる、最近の發行高は一千五百七十三萬六千六百七十圓の巨額で、此債券は帝國の公債と同一の資格があるから世襲財産等としては、公債よりも利廻り能き財産である、同行は今回の博覽會に對し、拓殖館の入口に銀行業務の一覽を統計に示して陳列し、北海道の金融の大勢と拓殖事業の現狀を出品してゐる。

■博覽會と台灣製糖會社

臺灣製糖會社は館内に灣地打狗河口の實景を背影とし、倉庫を見せ、精製糖（白砂糖）を倉壁と爲し、其前の棧橋の杭を瓶入の分密糖（赤砂糖）を以て作り、河畔には竹筏を浮べて上に盥を置き、それには副製物たる酒精の瓶を滿載して一見同社の製品と打狗の光景を忍ばせてゐる。糖業者のみならず、一般觀覽者の參考として見遁ずべからざるものである。

■博覽會と日本郵船會社

日本郵船株式會社では、博覽會第二會場中の運輸館に、目下長崎三菱造船所に於て建造中の

■伏見丸の特別　一等船室の實物を陳列して、公衆の觀覽に備へてゐる、同船は總噸數一萬二千噸、進水の曉には歐洲航路に配船さるべきものである、之れと共に陳列されてゐるのは姉妹船諏訪丸の模型と世界航路の模型をキネオラマ應用にて、晝夜の光景を現出させてゐる、目下同社に於て、

■米國航路　に使用の船は、横濱、靜岡、佐渡、丹波、阿波、安藝、の六隻て各船とも乘組員は盡く日本人で、名船に無線電信局の裝置があり、阿波、横濱、靜岡の三船には日本郵便局の設けがある、當會社船の特色とする所は、三等船客に對しても、殊に待遇懇切なる點てある。

■歐洲航路　毎二週一回横濱を發す。

船數十一隻の内、最近進水式を擧行したる香取、鹿島の兩船は實に理想的汽船とも云ふべき物て、船中一つとして備はらざる物はない。今香取丸の構造の概略を述べると

總噸數	一萬五百二十六噸四五	速力	十七海里半
一等客數	百二十人	二等客數	五十六人
三等客數	百八十六人		

而して鹿島丸も之れと殆ど同樣てある。

■切符發賣所

東京切符發賣所　京橋區出雲町三番地（銀座通）
横濱支店　横濱市海岸通四丁目十八番地
神戸支店　神戸市海岸通一丁目
門司支店　門司市大字門司字濱町六番地
上海支店　米粗界北揚子路第三番戸
其他香港、シヤアトル、ヴイクトリア等

博覽會と朝鮮銀行

朝鮮の中央銀行たる朝鮮銀行は朝鮮館朝鮮總督府の出品中に、目下鮮地に於て銀行券として流通して居る處の紙幣及び葉錢を出品して、觀覽者の參考に供して居る、同行は資本金壹千萬圓の大銀行で、現在の拂込總額は七百五十萬圓であるが資金の需用に伴ひ近く最後の拂込を決行して全額拂込濟にするさうである、本店は京城で、支店は東京、大阪、釜山、馬山、木浦、群山、大邱、仁川平壤、鎭南浦、新義州、元山、羅南、會寧、安東縣、長春、奉天、大連の十八個所、東京支店は日本橋茅場町に在る。

博覽會と臺灣銀行

臺灣銀行は臺灣館內臺灣總督府出品物中に同行の發行に係る各種の紙幣を陳列して公衆の觀覽に供して居る、同行は灣地の金融機關として商工業並に公共事業に向つて低利資金の融通を圖ると共に、一歩進んで日本と南洋諸邦との間に於ける商工業の金融機關となり、併せて本邦對是等諸國間の貿易を助長する目的で、明治三十二年兌換銀行券發行の特權を與へられ、臺灣島に於ける中央銀行として資本金壹千萬圓を以て創設せられたるものてある、同行東京支店は

業務の發展に伴つて麹町丸之内なる中央停車場の傍に建坪六百坪。總坪數四千二百廿坪の最新式四層樓の建築に着手した、同建築は來る大正四年九月竣成の豫定である、尙ほ同行の支店出張所は目下左の廿四個所にある。

支店　基隆、臺中、嘉義、臺南、厦門、香港、東京、大阪、神戸

出張所　臺東、打狗、宜蘭、淡水、新竹、阿緱、花蓮港、澎湖島、上海、九江、福州、汕頭、廣東、新嘉坡、倫敦

■博覽會とサイダー

清涼飲料研究所の主催で第二會場外國館に清涼飲料水製造機械並びに歐米外國の香料を陳列してゐる、又第一會場には大日本飲料協會の主催で、全國サイダ製造家の代表的製作品百五十餘種を出品して兩者共何れも當業者及び一般觀覽者の參考に供してゐる、而も機械を運轉して作業の實況を見せてゐるなどは寔に結構な催しである、此等の機械並びに瓶、コルク等の諸材料飲料水製造家に最も信用の篤い日本橋本銀町二丁目三番地の高木商店が直輸入若しくは附屬工場で製作販賣したものであると云ふ事である。高木商店主人は高木六太郎と云ひ目下斯業の發展を計る爲めに經濟の取れない飲料商報を經營し又清涼飲料研究所の理事として倉島理事と共に活動してゐる。

■電車と人車

■博覽會行の電車　には車の前後に分銅形の札を掲げて博覽會行きと書し一見

直に乘車に便ならしむると共に歸路の乘車を容易ならしむるため各市内の車庫を一號より八號に分ち之を色分にして菱形の印に何號と書し車の兩側窓下に掲げ一見向ふべき方向を示してゐるから、別項東京案内中のを參酌して、能く注意して乘るが能い。

一號黑は三田、二號青は青山、三號赤は新宿、四號藍は本所、五號茶は大塚、六號鼠は巣鴨、七號オレンヂは三輪、八號紫は日比谷

■人力車　市内各主要の箇所に一定の明瞭なる賃銀表を掲示して賃銀の統一を圖つてゐるから、是亦頗る便利である。

第二　東京案内

■東京の歴史

東京は昔の江戸の地である、江戸と云ふ名は、其昔源平時代に江戸太郎重長の領地であつた所から起つた名稱だとも云ひ、入江（東京灣）に臨んでゐる門戸と云ふ意味だとも謂はれてゐる、昔は所謂

■武藏野の一部　で、見渡す限り草茫々として、武藏野は月の入るべき隈もなし

草より出て、草に入るなり

と歌人として云はせるに至つたのである。下つて足利時代になると、此地は彼の有名な、

■太田道灌の領地　となり、城を築いて居住したのである、歌人として一世に名高き道灌は、武藏野の廣い事を詠じて、

露おかぬ方もありけり夕空の空より廣き武藏野の原

と云つてゐる、又景色の能いのと賞して、

我庵は松原續き海近く富士の高嶺を軒端にぞ見る

と詠じた。天正十八年、豐臣

■秀吉が北條氏　を相模の小田原に征するや、德川家康も從つて軍中に在つた或時秀吉は家康に向ひ、

『北條氏滅亡の曉には、關八州を擧げて御身に參らせん、其時に御身は何處に在住召るゝぞ』と尋ねた。家康は答へて、

『畏けなき御仰、某八州を給はりし時には、北條氏と同じく小田原に住ひ申すべし』といふと、秀吉は强く頭を振り、

『いや〳〵、これより十餘里東に當り、江戸と云ふ地あり、

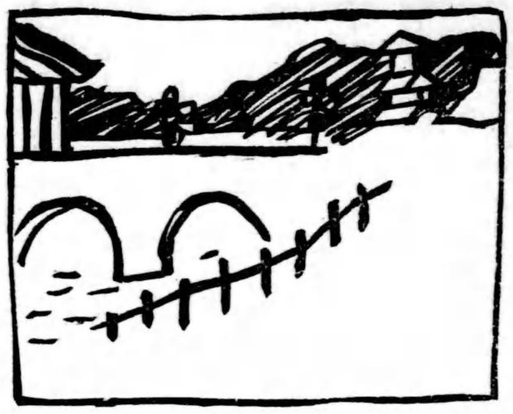
■要害無双交通　の便亦甚だ宜し、御身よろしく此處に居城を設けられるべし』と云つたので、家康も其通りにしたところ、不世出の英雄の言に誤りなく、日一日と繁華になつて行き、江戸八百八町の賑ひは、全國に並びなく成つたのである。明治元年、

■先帝明治天皇　王政復古の大偉業を成し給ひ、桓武天皇以來、千有餘年の都の地たる平安の皇居を、此處に遷されたのである。此處に於て江戸の名は東京と改まり益々繁華となり遂に東洋隨一の大都會たる今日に至つたのである。

■東京の名所舊蹟

麹町區内

■宮城　皇居は曾て江戸太郎重長の築いた城を、徳川家康入府して、之れを修築し、こゝに三百年の居を構へたのであるが、十五代將軍の大政奉還後、先帝都を此處に遷させ給ひ、以て皇居と定めさせ給ふたのである、鬱々たる四圍の老松、常に翠を湛へて、君が壽を壽ぎつゝある。



■二重橋　は宮城の御門前の橋で、二重に架せられてゐる爲めに此名がある。

■楠公の銅像　宮城の前、芝生廣々として、松ケ枝風に嘯くのところ、馬上ゆたかなる楠公の銅像は、宮闕を守護するが如くに建つてゐる。

■日枝神社　俗に山王様と稱する所の日枝神社は永田町にある、境内神さびて轉た崇高の念を禁ずる事が出來ぬ、此社の祭禮は、江戸時代よりの名物として、今に名高いものである。電車は外濠線の山王下で下車するのがよい。

■凱旋道路　二重橋前より馬場先門に至る大道路は、是れぞ三十七八年戰役の

紀念として、造り上げられたるもので、名付けて凱旋道路と云ふのである。

■日比谷公園　人工的公園として全國隨一の公園は實にこゝである。曾ては練兵場であつたのを改造したので、築山あり、泉水あり、梅あり櫻あり、藤あり躑躅あり、茶亭あり料理店あつて、四期の歡樂に頗る適してゐる。藤棚の傍には戰役記念の東郷大將手植の月桂樹があるが、大分大きくなつて來た。

■櫻田門　萬延元年三月三日、水戸浪士十七名、薩州浪士一名合せて十八名の憂國の志士が、時の大老井伊掃部守を刺した舊蹟はこゝである。

■海軍の三銅像　霞ヶ關の海軍省の前には、帝國海軍に功勞のあつた、西郷、川村、仁禮三將軍の銅像がある、又其向ひの外務省の前には、陸奥宗光伯の銅がある。

■中央停車場　呉服橋際の同停車場は近く落成されんとしつゝある、同停車場は實に日本第一の美觀宏莊模範的一大停車場で、愈々開始の曉には、一層便利となる事は言を俟ぬ所であらう。

■東郷阪　これは中六番町にある、東郷大將の功蹟を永く世に止めんと、同大將住邸の傍の坂に命名したのである。

■清水谷公園　明治十一年、時の内務卿大久保利通公が、刺客島田一郎に刺れた舊蹟で、同公の碑が建てられてある、境内はさして廣くはないが、靜かな能い公園で、電車は赤坂見附で降りるが能い。

■靖國神社　忠勇なる我が戰死將卒は靜かに此處に睡つて、永久に護國の鬼となつてゐるので、毎年五月と十月には大祭がある、社の前には、兵部卿大村益

二郎、參謀總長川上操六、內務大臣品川彌二郎等諸氏の銅像があり、境內には戰利品其他を陳列して公衆の縱覽に供す遊就館がある、又陽春四月の候には、櫻花が美しく開いて人の目を聳てしむるのてある。

■麴町區內には　此外に諸官省や、帝劇、有樂などの劇場もあるが、それは別項に記して此處には擧げぬ。

日本橋區內

■水天宮　蠣殼町にある、靈顯頗るあらたかなる故を以て、參詣する者が引きも切らぬ。

■阪本公園　阪本町にある小公園て、其附近は即ち活戰場の株式の取引場てある。

■三越と白木屋　一は室町、一は通一丁目にある、共に東都て一二を爭ふ大呉服店で、流行の源泉は此處から發すと云つても差支へない位である、何人も縱覽隨意、這入つてよしんば一品も買はずに出ても、決して不厭な顏はしない。

■日本銀行　三越呉服店と相對してゐる、隣は三井銀行て、筋向ふは正金銀行てある、若し呻る程金があるのが美しいと思ふ者があつたら、一生懸命に働くが能い、金は自ら其手に入つて來るてあらう。

■兩國公園　兩國橋の傍に在る、阪本公園は何となく陰氣だが、こゝは何となく陽氣な小公園てある。

京橋區內

■西本願寺　築地にあつて、善男善女の參詣する者頗る多い。

■數寄屋橋公園　數寄屋橋の傍にあつて、東京中で最近に出來た公園である。

■銀座通り　東京隨一の繁華の地て、三層五層の大商店、軒を並べて顧客の來るのを待つてゐる。

芝區內

■高輪御殿　と濱離宮、芝離宮などゝ云ふ所は、草莽の臣の容易く拜觀する事の出來る所ではないが、せめて御門前なりとも拜觀するの要がある、高輪御殿は高輪、濱離宮は汐溜町先、芝離宮は濱崎町先にある。

■芝公園　境內頗る廣く且つ幽邃て、好箇の遊覽場所てある、公園內には、德川家の靈廟、三緣山增上寺、伊能忠敬の碑のある丸山、明治の偉人後藤象二郎伯の銅像などがある。

■德川家の靈廟　は日光のそれを模して造られたもので、金壁燦爛として人の目を抉るのてある。

■三緣山增上寺　本堂は數年前、惜しいかな火災に罹つて、未だ再建の運びに至らない。

■愛宕山　東京屈指の高所て、一望の下に市の大半を見る事が出來ると共に、白帆の往き交ふ品川灣も、指呼の間にあるのてある、男坂、女坂等の石階を數へつゝ上り且つ降るのも、時に取つての一興てある。

■琴平神社　琴平町に在る、所謂虎の門の琴平てある、參詣者が常に絶えぬ。

■**泉岳寺**　高輪の泉岳寺と云へば、三歳の兒童も其名を知つてゐる寺である、赤穗四十七義士の墓、同木像、淺野内匠頭の墓、首洗の井などがある、其中で義士の墓と木像とは共に五厘宛の見物料を要する、寺の門前門外には、義士に關する物品を賣る家が多い。

■**芝大神宮**　の社は品川線電車の大門停留場の直ぐ傍である、俗に神明様といふので、其近くに魔窟があるから、鼻毛を讀まれぬ用心が肝要でござる。

麻布區内

當區内には、市兵衛町の麻布御用邸の他には之れと云ふ所がない。只だ強いて尋ねれば天長中僧空海の創建にかゝる善福寺などであらう、境内には杖銀杏、俗に逆銀杏といふ木がある。所在地は山元町。電車は二の橋下車。

赤阪區内

■**東宮御所**　今上陛下の未だ皇太子に在せし時の御所で宏莊を極めた御所である。

■**青山御所**　目下は皇太后陛下の御座所である。

■**豐川稻荷**　は豐川町に在り、藝人などに信仰者が甚だ多い。

■**乃木邸舊趾**　軍神乃木大將の邸は、大將を欣慕する者の隨意に出入する事を許してある、新町に所在してゐて、附近に乃木坂がある。

■**青山練兵場**　こゝには大正博覽會の別館が

設けられて、軍艦三笠の模型や、飛行機が陳列されてゐる。直徑八丁に及び、平坦なる場内は、散歩するに頗る適してゐる、但し練兵の邪魔にならぬやうにしないと叱られる。

■**青山墓地**　鳥邊野の烟絶えぬ世の中とて、青山墓地には名士の墓所が甚だ多い、乃木大將夫妻の墓、常陸丸陣歿者の墓など、何れも參拜の必要があらう。

■**氷川神社**　は氷川町に在る、境内老樹數多く、夏日の納涼には持つて來いの場所である。

■**溜池**　曾て溜池町に在つたのであるが、今埋められて影も形もなく、只名のみ殘つてゐるに過ぎぬ。併し新橋と同じく赤坂藝者のある故を以て聞えてゐる繪葉書でお馴染の萬龍は實に此處に居たのである。

四谷區内

■**須賀神社**　須賀町に在つて、十一月には酉の市が開かれる。

■**お岩稻荷**　須賀神社の直ぐ近くてある、詣てゝ傳説のお岩を忍ぶも亦よからう。其他既に郡部に屬してゐるが、便宜上こゝに述べると、

■**植物御苑**　は内藤町の隣地て、折々鶴の啼く聲が聞える。

■**大宗寺の閻魔**　は内藤新宿二丁目に在り、東京に於ける有名な閻魔樣てある。

牛込區内

■**陸軍士官學校**　は市ケ谷にある、幼年學校も其構内だ。

■**市ケ谷八幡**　古來有名な社て、境内から眼下に見下す外濠の櫻などは、中々乙なものてある。

■**江戸川の櫻**　對岸は小石川區で、兩岸に櫻花は美しく咲き亂れる、樹の數は餘り多くはないが、最も見頃の樹齡なので、其點から云へば、上野、向島にも劣らない。

■**山吹の里**　太田道灌が雨に逢うて賤の女に簑を借りやうとした舊蹟は、山吹町附近だと云ふが、今は跡もないのである。

■**東京監獄**　市ヶ谷にある、此處へばかりはお互に這入りたくないものだ。

小石川區內

■**植物園**　は白山御殿町にある、散歩にもよし、教育上の參考にもなり、一舉

兩得の所である、巢鴨線の指ケ谷町停留場で電車を降りるがよい。

■**傳通院**　表町に在る、先年火災に罹つた本堂は目下建築中である。

■**砲兵工廠**　水戸邸の跡で、我が軍隊の兵器はこゝで鑄造されるのである。

■**後樂園**　天下に名高き水戸侯の後樂園は砲兵工廠の隣地である、但し猥りに入る事は出來ぬ。

本郷區內

■**湯島天神**　天神町にある、附近は所謂天神藝者の住家である。

■**舊聖堂**　今は教育博物館になつてゐる、入場料は無料である。

■**根津權現**　は須賀町にある。

■**團子阪の菊**　以前ほど盛んではないが、秋は相當に見物人がある。

■大學の赤門　加賀侯の門を今は帝國大學で使用してゐるので、大學の事を俗に赤門と云ふくらゐ透つたものである。

神田區內

■神田明神　平親王將門を祀つたもので、神田明神の祭禮と云へば、江戸ッ子の派手を見せる隨一の物であつたので、今は素より昔ほどではないが、山王のそれと共に有名なものである。

■青物市場　多町にあつて、魚河岸とは又別樣な氣分がするのである。

■軍神の銅像　須田町の變形十字街の所に屹立してゐるのが即ち軍神廣瀨中佐の銅像である。

■ニコライ堂　駿河臺の高所にあるニコライ教會堂は、朝夕鳴らす其鐘の音に依て、殊更人に知られてゐる。

■今川橋の松屋　三越、白木と共に、有名な呉服店で、此處を知らぬ者は、倶に流行を語る資格がないと云つてもよろしい。

下谷區內

■上野公園　十萬坪に餘る境內には、陽春四月の櫻花の外に見るべき物が尠くない、小松宮彰仁親王殿下の御銅像、清水堂、秋色櫻、西鄕隆盛の銅像、彰義隊の墓、動物園博物館、大佛、德川家靈廟、東照宮、帝國圖書館等がある、又各種の展覽會は毎年こゝて開催されるのである。

■**不忍池**　夏期になると紅白の蓮花は池水を覆うて芳香を放つので、曉天露を踏んで之れを賞するのも、興深きものである。

■**谷中墓地**　青山墓地と共に東京に於ける二大墓地で、有名な谷中の天王寺がある。

■**入谷の朝顔**　曾ては有名であつたが、今は名のみ殘つて見る影も無いのである。

■**下谷公園**　佐竹侯の邸跡で、名は公園だが商家が軒を連ねて、少しも公園らしくない、竹町といふのが其町名である。

■**大鷲神社**　酉の市の最も有名な所で、龍泉寺町にあるのだが、吉原に接近してゐるので、淺草區に在ると思ひ違へてゐる者も無いではない。

■**淺草公園**　帝都隨一の樂園境、三百六十五日、遊覽客の跡を絶つた事がない

觀音堂を始めとし、淺草神社(三社)、仁王門、二天門、五重塔などがある、興行物としては、活動寫眞は云ふに及ばず、浪花節、喜劇、玉乘花屋敷等一々細述した日には、本書の全頁を費しても尙足らぬのである。

■**東本願寺**　松淸町にある、遙に築地の西本願寺と相對して、堂宇の宏壯を競つてゐる。

■**駒形堂**　駒形町に在り、運慶作の馬頭觀音を本尊としてゐるが遊女高尾の「君

は今駒形あたり杜宇」の句を以て常に連想されてゐるのてある。

■待乳山聖天　及び山谷堀、今戸橋、何れも江戸時代から有名なものてある。

■竹屋の渡船　淺草區から對岸の向島の堤へ通ずる渡船て、是亦有名なものて乘船賃一人金一錢也。

■花川戸　幡隨院長兵衞や、助六が居たといふのて名だけは聞えてゐる。

本所區内

■堤の櫻花　其昔德川八代將軍吉宗が命じて植ゑさせたものて郡部に亘つて延長實に一里、前に隅田の清流を控へて風趣掬すべしと爲す、曾ては一重ばかりてあつたが、今は八重をも大分交へて植ゑてある。

■三圍神社　小梅町にある、境内には彼の有名な其角の『夕立や田を三圍の神なれば』の句と刻した碑を始めとして見るべき物が多い。

■牛島神社　須崎町にある、本所の總鎮守て、俗に牛の御前といふのは此社の事てある。

■秋葉神社　請地町にある、十一月には酉の市が設けられる。

■端艇競爭　毎年春秋二期て、隅田川て各學校のボートレースが開始され、赤よ青との聲援の聲が勇しい。

■回向院　兩國橋畔にあり有名な大刹てある、大相撲は國技館の出來るまては此境内て興行されてゐたのてある。

■八幡宮　不動堂と相隣して、兩境内が即ち深川公園である、電車は富岡門前若しくは黒龜橋で降りるのがよい。

■木場　魚河岸、青物市場などゝ並んで有名なのは、材木問屋の集合地なる木場である、粹人通客は往々こゝから輩出するのである。

■經濟的東京見物

廣い東京の事であるから、詳細に且つ不秩序に見て歩いた日には、一箇月を費しても、尚足らぬ所であるが、之れを經濟的に見て歩くと、五六日もあれば一通り見物する事が出來る。其順序を左に述るとしやう。

第一日

苟くも帝國臣民である以上は、先づ第一に。

■宮城を拜觀　しないと云ふ事はない、電車を馬場先門で降りて、凱旋道路を通つて二重橋の袂に來て、大君の千代八千代を壽いてから、元來た道を歸ると右方に當つて、

■楠公の銅像　が見えるから、近付いてそれを眺め、お濠の傍へ出て、左に帝國劇場と警視廳とを瞥見し、日比谷公園に入り、公園を見たらば櫻田門の方へと拔け、札の辻行の電車線路を南方に、左に海軍省の三銅像、右に外務省の陸奥伯の銅像などを見ながら、芝區に入つて琴平神社に參詣し、續いて愛宕山に上り、歩く事一二町ばかりにして、

■芝公園　に赴き、山内を見廻つた末、神明神社を見るなり、割愛するなりして、芝離宮を遠くから拜觀し、さして道は遠くはないが、大門停留場から品川行の電車に乘り、伊皿子停留場で降りて、右に伊皿子坂を上り、高輪御殿の御門を拜觀し、それから泉岳寺を尋ねて、義士の舊蹟に感慨の念を注ぐが能い。是れて此日は宿屋へ歸るのてある。

第二日

此日は劈頭先づ神田明神に參詣するのて、電車は本郷線の湯島一丁目で降りるのてある、

■神田明神　を見終つたら、三四町歩いて須田町へ來て、廣瀨中佐の銅像を眺め、青物市場を一寸覗いて、品川上野間の電車通りへ出て、今川橋まて歩いて松屋呉服店に入り、更に三越呉服店を見物し、日本銀行、三井銀行を瞥見し、魚河岸を通りから覗いて日本橋を渡り、白木屋呉服店に至り、此處を見終つたならば、押上行の電車に乘り、

■芽場町で乘換　へて水天宮前まて行き、水天宮へ參詣して、築地行の電車に乘り、築地て降りて、西本願寺に赴き、引返して木挽町の通りを銀座の方へと來ると、右方に歌舞伎座が見える。

■銀座の通り　は人通りが烈しいから、掏兒に財布や紙入をチヨロまかされない用心をして、大きにハイカラがつてカフエーへても寄るが能い。さうして西陽春く頃に數寄屋橋公園に來て、一休して宿屋へ歸るのてある。

ニコライ堂や阪本公園が見たければ此日に見るのてあるが、それは割愛しても

能いだらう。

第三日

此日の振出は、

■**靖國神社**　である、此處の裏門を出て三四町行くと東郷坂があるから、それを見てから、市ヶ谷見附へ出て、市ヶ谷八幡に參詣し、陸軍士官學校を横目に見ながら、本村町停留場から赤阪見附行の電車に乗り、赤阪見附で降りて、左に見える辨慶橋を渡ると、直ぐに清水谷であるから、大久保内務卿の偉功を忍び、

■**日枝神社**　に詣でゝ一休するが能からう、それから豐川稲荷から、青山御所を拜觀し、青山一丁目から六本木方面へ行く電車通りを二三丁行くと乃木邸の前へ出る、此處から氷川神社へはさして遠くない。それから、

■**青山練兵場**　へ行くには、麻布六本木から電車に乗り、青山一丁目で乗換て同三丁目で降りるのである、次には青山墓地に入つて、名士の奥都城を訪ひ、尚時間に餘裕があつたら、墓地下から四谷鹽町行の電車に乗り、左門町停留場で降りて、お岩稲荷や須賀神社、更に植物御苑、大宗寺などへ行くが能い。

第四日

■**江戸川の櫻**　見物を振出とするのであるが、櫻の時期でない時は行く必要がない。それから傳通院まで歩いて、其處を見たらば、厩橋行の電車に乗り、車中から後樂園や砲兵工廠をチラと見ながら、春日町の巣鴨行に乗換へ、指ヶ谷町停留場で降りて、植物園を尋ねて行き、更に指ヶ谷から三田行へ乗つて、再

び春日町で厩橋行に乘換へ本郷三丁目で降りて、赤門を見に行くのである、赤門を見たならば、

■**大學の構内**　を拔けて、本郷區役所前へ出て、湯島天神に詣でゝ、乘換が面倒だから上野廣小路まで歩き、其處から淺草行（上野行）へ乘つて雷門まで來て今度は吾妻橋から千住通ひの、

■**川蒸氣**　へ乘り、言問まで行つて上陸し、若し端艇競漕がある日なら夫れを少し見、堤の櫻を眺めながら、牛島神社、三圍神社等へ詣り、吾妻橋まで歩いて深川方面へ行く電車に乘り、龜澤町で乘換へて、國技館前まで行き、國技館と回向院と見て、再び電車で龜澤町まで歸り、此處で深川行（大手町若くは吳服橋行）へ乘換て、黑龜橋で降り、河岸傳ひに、

■**深川の不動**　と八幡宮へと參詣し、丁度日も暮れるてあらうから、洲崎遊廓の見物に赴くのてある。此處て春宵一刻の快を貪ると貪らないとは、敢て筆者の知つた事ではないが、防波堤上に上つて、入江に照る月を見る事だけは忘れてはならぬ。

第五日

此日は第一に、

■**不忍池**　を一覽し、上野公園を隈なく經廻り、天王寺を見ると見ぬとは御勝手として、淺草行の電車で菊屋橋停留場まて來て、東本願寺を一見し、それより、

■**淺草公園**　に來るのてある、こゝて多分入相近くなるてあらうが、待乳山は

程遠くないから、廻るが能い、そして山谷堀に付いて、所謂土手八丁をたどり、吉原遊廓見物と洒落のめすのである。

■以上の五日　て一通り東京見物は終つたが、尚見殘した所もないでは無いから、自分の行きたいと思ふ所や郊外へは次の日に行くが能い、又もつと緩々見物したいと云ふのならば、一日の行程として擧げて置いたので二日に見やうが三日に見やうが、勿論それは御隨意である。

■官廳一覽

■内閣　宮城内にあり、内閣總理大臣が之れを統轄してゐる。

■宮内省　宮城内に在る。

■樞密院　宮城内。

■元帥府　宮城内。

■軍事參議院　宮城内。

■近衛師團司令部　宮城内。

■帝國議事堂　衆議院と貴旅院との二部に別れ、内幸町一丁目に在る。

■司法省　西日比谷町。

■大審院　同所。

■東京控訴院　同所。

■東京地方裁判所　同所。

■外務省　霞ヶ關一丁目。

■海軍省　同二丁目。

■參謀本部　永田町一丁目に在り、門内には有栖川宮熾仁親王殿下の銅像がある。

■陸軍省　永田町に在る。

■文部省　竹早町所在。

■大藏省　所在地大手町一丁目。

■内務省　同上。

■中央氣象臺　宮域内にある。

■印刷局　大手町二丁目。

■會計檢査院　同上。

■東京府廳　有樂町二丁目に在る。

■東京市役所　右構内。

■警視廳　有樂町。

■遞信省　木挽町八丁目。

■農商務省　同十丁目。

■第一師團司令部　青山南町一丁目。

■陸軍大學校　青山北町一丁目。

以上擧げたる諸官省は、些か思ふ旨があつて、遊覽案内の中には加へず、茲に特別に掲げたのである。是等を特に見物しやうと思ふ方々は、前項遊覽案内道筋の中へ、適宜に入れて見物なさるがよろしからう。

——（以上麹町區）——

——（以上京橋區）——

——（以上赤坂區）——

■東京の宿屋

帝國ホテルも宿屋なら、場末の木賃宿も宿屋である、併しそんな極端な話は罷めにして、普通東京の宿屋の宿泊料はと云ふと、大抵何處でも三四等ぐらゐに區別してあるが。

■第一流の宿屋　では、一泊一名一圓五十錢、二圓、二圓五十錢ぐらゐであるが、此他に帳場へ三圓、女中其他に二圓ぐらゐの祝儀は是非とも遣らなければならぬ。

■第二流となる　と、一圓、一圓五十錢、二圓ぐらゐ、茶代其他は第一流のそれと同樣てあらう。

■第三流は丁度　手頃なところで、七八十錢から一圓五十錢ぐらゐてある、茶代祝儀は合せて一圓五十錢も出したら能からう。

■第四流に至つ　ては、三十錢、四十錢、五十錢ぐらゐてある、茶代や祝儀も遣れば結構、遣らなくとも差支へはないのてある。

■長く滯在　する場合には、宿屋よりも下宿を取つた方が便利だ。一ケ月十圓内外ぐらゐから種々ある。

■左へ左へ

東京に不馴な者は能く曰ふ、東京と云ふ所は面倒な所で、道路を歩くにさへ歩き方があると呟すが、

■**決して面倒な**　事のある譯はない、心得てさへゐれば、六かしい事も何にも無いのである、それならば何うすれば能いかといふに、人道と車道との區別のある所ならば、

■**左側の人道を**　さへ歩ければ能いので、又人道と車道との區別の無い道なら、左側の端をさへ歩けば能い、凡て左側々々とさへ歩いてゐれば能いのだ。それから同じ左側を歩いてゐても、方々キョロ〳〵見物して歩く時には後から來る、

■**他人の邪魔に**　なるから、成るたけ端の方を歩いてゐなければならぬ、又東京の道は中々分り易くないから、道の分らぬ時には、速かに、

■**警官に道を問**　ふのが宜しい、警官に道を問ふ時には、脱帽して行先を分り能く丁寧に詢ねると、警官は親切に教えて呉れるのである。詢くのは氣廻りが惡いの、面倒だのと云つてゐると、意外な道へ出て、飛んでもない損をする事になつて了ふ。

■東京の電車

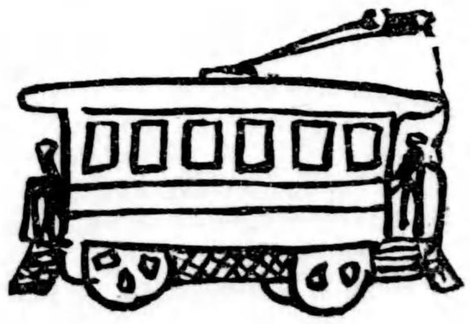
電車の線路は四通八達、何處へ行くにも、殆ど足を勞せずに濟む、お負に乘車賃の安い事は無類と云つても能い。併し此安い乘車賃も、下手に乘ると、

■**意外に高い物**　に付く場合も無いではないから、一應萬事を心得て置く必要がある、其乘車賃は、通行税共で、

■**片道一回五錢**　であるが、往復を買ふと九錢で、差引一錢の得がある、若し二人で乘つた場合には、片道切符を二枚買はないで、

■**往復切符一枚**　を買ひ、それを往復ともに切らせて了ひ二人で使用するのが徳用である。又頻繁に乘る場合には、

■**回數乘車券を**　買つて置くが能い、之れは二十回八十五錢、三十回一圓二十五錢、五十回二圓五錢の三種がある、通行税の關係で、回數の多い程一回の割合が安くなつてゐる。



■**割引電車と云**　ふのは、一回の乘車賃三錢、往復五錢である、これは毎年三月から十月までは朝七時前までの電車は盡く割引し、十一月から二月までは、七時までは前と同じてあるが、七時から八時には、普通の電車と割引車と一臺置きに發車するので、これは特に、

■**學生と勞働車**　の爲めに發せられるものであるが、普通の者もどん〳〵乘つてゐるのである。此他に軍服帶劍の軍人は時と場合を問はず、往復五錢で乘る事が出來る、但し是れには片道切符は發賣しないのである。電車は便利なものには違ひないが、一つ電車が淺草へも行けば、巣鴨へも行き、江戸川へも行くと云ふ譯には行かぬから、便宜な場所で、それ〳〵、

■**乘換をせねば**　ならぬ、其場合には乘換切符を貰はねばならぬ、電車へ乘つたらば、先づ第一に車掌から切符を買ひ、行く先を云ふと、乘換がある所なら車掌が直ぐに乘換を呉れる、その乘換切符には、乘換場所と行先と、乘換の時

間との三箇所に鋏が入れてあるが、

■車掌迚も人間　であるから、時とすると切り違へが無いでも無いから、能く調べて受取、萬一間違つてゐた場合には、早速切換させなければならぬ、切り違つてゐる乘換切符を以て乘換へると、

■再度乘車賃を　拂はねばならぬのである。又乘換の場合には、乘換場所で用を達したり何かして、時間を費しては不可ぬ、速かに乘換ねばならないのである。

■滿員の場合に　車掌臺に乘つてゐる事は默許されてあるが、運轉手臺に乘る事は絶體に禁じられてあるから、乘つてはいけぬ、又、

■電車の進行中　乘つたり降りたりする事と、窓から首を出す事と、停つてゐる電車の後から線路を横切る事とは、頗る危險であるから絶體にしないに限る

■其の運轉系統　は大體左の如くであるから、乘る前に注意して乘るが能い、停車場の名と共に掲載しやう。

《其一》　品川上野淺草間

此線は上野行と淺草行とが一臺置きに發車するのである。

品川八ッ山、品川停車場前、庚申堂、泉岳寺前、伊皿子、札の辻（赤羽橋、虎の門、櫻田門方面乘換）薩摩原（芝公園、日比谷、巢鴨方面乘換）芝橋、金杉二丁目、金杉橋、大門、宇田川町、露月町、源助町、新橋（赤坂方面乘換）竹川町、銀座尾張町（新宿、青山、築地方面乘換）銀座二丁目、同一丁目、南傳馬町、中橋、通三丁目、日本橋（大手町、押上方面乘換）室町、本石町

本石町で淺草行と上野行とが分れるので、先づ上野行の方を記すと、

今川橋、鍛冶町、須田町（新宿、青山、江戸川、柳原、兩國、江東橋、本郷方面乘換）萬世橋（牛込方面乘換）末廣町、黑門町、上野廣小路（本郷、大塚、江戸川、押上方面乘換）上野公園、上野停車場前、車坂町（北千住、人形町方面乘換）南稻荷町、淸島町、菊屋橋、田原町、東仲町、淺草雷門、

又本石町から淺草線は、

鐵砲町、小傳馬町(北千住、人形町方面乘換)鞍掛橋、馬喰町三丁目、淺草橋(江東橋、須田町、江戸川、新宿、青山方面乘換)茅町、須賀橋、森田町、藏前片町、厩橋(本郷、大塚、江戸川、押上方面乘換)駒形、淺草雷門

《其二》　青山線

これは起點を中澁谷に發し、九段兩國、築地兩國、九段上野、築地淺草の四方面行がある。起點から三宅阪までは四方面とも同樣である。

中澁谷、宮益阪上、同下、青山七丁目、同六丁目、善光寺前、青山五丁目、同四丁目、同三丁目、同一丁目(麻布、四谷方面乘換)表町、豐川稻荷前、赤坂見附(新橋、四ッ谷、牛込方面乘換)見附上三宅坂——以下九段兩國行——牛藏門(新橋方面乘換)五番町、九段上、九段下(江戸川乘換)神保町(巢鴨方面乘換)駿河臺下(外濠線乘換)小川町(三田方面乘換)須田町(上野、淺草、本郷、品川方面乘換)萬世橋、和泉橋(人形町、北千住方面乘換)美倉橋、左衛門橋、淺草橋(淺草、品川方面乘換)兩國——以下築地を經て青山へ——

三宅坂より築地兩國——參謀本部前、櫻田門(札の辻方面乘換)日比谷(三田、巢鴨、本郷方面乘換)數寄屋橋(外濠線乘換)銀座尾張町(淺草、上野、品川方面乘換)歌舞伎座前、築地、築地橋、新富町櫻橋、八丁堀、北島町、茅場町(大手町、押上方面乘換)蠣殼町、水天宮前(菊川町方面乘換)人形町(北千住方面乘換)久松町、濱町、兩國——以下九段を經て青山へ——

三宅坂より九段上野行——須田町までは九段兩國行に同じく、それよりは品川上野間と同じ、

三宅坂より築地淺草行——淺草橋まで築地兩國行と同じく、それよりは品川淺草間のと同じ、

《其三》　新宿線

この線には九段兩國、築地兩國、九段上野、築地淺草との四方面行がある。

新宿終點、追分、新宿二丁目、同一丁目、大木戸、鹽町(麻布方面乘換)傳馬町二丁目、麹町十二丁目、四谷見附(外濠線へ乘換)麹町八丁目、同四丁目、半藏門——以下九段兩國及び九段淺草行は青山線の同方向行と同樣——

三宅坂——以下築地兩國及び築地淺草行は青山線のと同じ、

《其四》　薩摩原より巢鴨及び本郷行

薩摩原(三田)芝園橋(麻布方面乘換)三門前、御成門(六本木方面乘換)愛宕町、櫻田本郷町、內幸町日比谷公園(新橋、青山、築地方面乘換)馬場先門、和田倉門、大手町(押上方面乘換)神田橋、美土代町、小川町——以下巢鴨行——駿河臺下(外濠線乘換)神保町、三崎町、水道橋(外濠線乘換)壹岐殿阪下、春日町(厩橋、大塚、江戸川方面乘換)柳町、指ヶ谷町、白山、曙町、原町、駕籠町、西の

丸、巣鴨
小川町より本郷へ――須田町、松住町、湯島五丁目、同一丁目、本郷三丁目（廐橋、大塚、江戸川、方面乗換）赤門前、大學正門前、追分

《其五》　押上線

押上、業平、吾妻橋（南千住、上野方面乗換）表町、外手町（大塚、江戸川方面乗換）石原町、龜澤町（江東橋、江戸川、九段、新宿青山方面乗換）林町、森下町（水天宮前、菊川町方面乗換）高橋、靈岸町、萬年町、黒龜橋、黒江町（門前乗換）相川町、永代橋、靈岸橋、茅場町（築地、新宿、青山方面乗換）日本橋（品川、上野、淺草方面乗換）吳服橋（外濠線乗換）吳服橋停車場前、大手町

《其六》　廐橋より大塚及び江戸川方面

これは外手町即ち廐橋から大塚と江戸川とが交互に發車するが、傳通院前までは同線路である。

外手町、廐橋（品川、淺草方面乗換）三筋町、小島町、竹町、西町、御徒士町（人形町、北千住方面乗換）上野廣小路（品川、上野方面乗換）天神下、本郷區役所前、本郷三丁目（三田、追分方面乗換）眞砂町、春日町（巣鴨、神田方面乗換）上富坂、傳通院前――以下大塚行――同心町、竹早町、清水谷、師範前、大塚窪町、大塚町、同辻町、大塚停車場前
傳通院より江戸川へ――大曲、東五軒町、水道町、江戸川橋

《其七》　江東橋、江戸川間

江東橋、綠町五丁目、同三丁目、龜澤町（押上大手町方面乗換）相生町、國技館前、兩國（築地方面乗換）淺草橋（品川、淺草方面乗換）左衞門橋、美倉橋、和泉橋（人形町、北千住方面乗換）萬世橋、須田町（本郷、品川、上野方面乗換）小川町（三田方面乗換）駿河壹下（外濠線乗換）神保町（巣鴨方面乗換）九段下（青山、新宿方面乗換）飯田町三丁目、同五丁目、飯田橋（外濠線乗換）大曲――以下廐橋發の江戸川行と同じ

《其八》　外濠線

これは赤阪見附が起點で、左右に駿河臺行及び萬世橋行と駿河臺行及び新橋行と交互に發車するのである。萬世橋行はお茶の水で分岐して、松住町を通過し新橋行は土橋で分岐して間に停留場がないから、此二分岐線は略して置く。

赤坂見附、辨慶橋、四谷仲町、四谷見附（新宿、麹町方面乗換）本村町、市ケ谷見附、新見附、逢坂

下、牛込見附、飯田橋(神田、江戸川方面乗換)小石川橋、水道橋、本郷元町、順天堂病院前、お茶の水(萬世橋分岐點)駿河臺下(九段、江東橋方面乗換)錦町三丁目、神田橋(三田方面乗換)龍閑橋、常磐橋、呉服橋(押上、大手町方面乗換)八重洲橋、鍛冶橋、西紺屋町、數寄屋橋(築地、新宿、青山方面乗換)山下門、土橋(新橋分岐點)櫻田本郷町(三田、巣鴨、本郷方面乗換)南佐久間町、虎の門(札の辻、櫻田門方面乗換)葵橋、溜池、山王下、赤坂見附

《其九》　麻布線

芝園橋、赤羽橋(札の辻、櫻田門方面乗換)仲の橋、一の橋、二の橋、三の橋、古川橋(目黒線分岐點)四の橋、光林寺前、天現寺橋(恵比壽線分岐點)廣尾橋、赤十字下、笄町、霞町、墓地下、三聯隊裏、青山一丁目(青山、赤坂見附方面乗換)權田原、信濃町、左門町、鹽町(新宿、四谷見附方面乗換)

《其十》　麻布別線

お成門、廣町、神谷町(虎の門、櫻田門方面乗換)飯倉五丁目(札の辻、方面乗換)狸穴町、飯倉片町六本木、一聯隊前、乃木坂上、青山一丁目(青山、赤坂見附方面乗換)

《其十一》　人形町北千住線

人形町、留堀一丁目、小傳馬町(淺草、品川方面乗換)松枝町、和泉橋(青山、新宿、江戸川、江東橋方面乗換)松永町、仲御徒士町、御徒士町(大塚、厩橋方面乗換)車坂町(淺草方面乗換)上車坂、坂本二丁目、同四丁目、金杉上町、同下町、三の橋、圓通寺前、天王前、終點

《其十二》　南千住線

雷門、山の宿、聖天町、吉野橋、吉野町、山谷、涙橋、南千住

《其十三》　水天宮菊川橋間

水天宮前、中の橋、新大橋、安宅町、森下町(大手町、押上方面乗換)富川町、德右衞門町、菊川橋

東京の人力車

これは時と場所、場合に據れば人に依つて賃錢は一定して居らぬ。歸り俥であれば法外に安いし、歸りのない所へ行く時には馬鹿に高いと云ふ風であるから大凡の所も賃錢を擧げる事は困難である、而して稀には、別項記載の如き、

■**朦朧車夫も無**　いてもないから、成べく停車場に着いた時には、其の停車場の降客相手に依つて生活して行く俥夫の一團があるから、それに乘るがよい、これは賃錢は切符制度なので、且つ一定してゐるから至極便利である、其各區各所へ行く賃金表も掲載したいとは思ふが、何しろ廣い東京であるから、迚も此小冊子に掲載しられないのである。

■**又旅館から直**　ちに、俥で行かうと云ふ場合には、其旅館の番頭に命じて出入の確かな俥夫を呼ばせるが能い、無論便利て且つ安全だ。

■**停車場のや旅**　館の俥屋の如く、或は賃錢が一定し、或は大程相場の定まつてゐる俥夫も、左の如き特別の場合には、割增を取られるのてある。

手荷物附（一貫五百目以上）二割增、子供同乘（三歳以下）二割增、降雨二割增、降雨の節子供若しくは手荷物附三割增、降雪四割增、降雪荷物附五割增、暴風雨四割增、暴風雨手荷物附五割增、夜二割增、夜手荷物附三割增、夜雨三割增、夜雨手荷物附四割增、夜雪五割增、夜雪手荷物附六割增、夜暴風雨五割增、客待一時間八錢

大要右の如くてある。

■東京の汽船

汽船は吾妻橋を起點として、永代橋まて下る隅田川汽船會社、千住まて溯る千住吾妻汽船會社、この二つが主なるもので、其他には矢張吾妻橋を發して押上から龜戸に行く物、兩國を發して、四ッ目から同じく龜戸方面へ行く物などがある。

■**吾妻と永代間**　とのは、吾妻橋、厩橋、横網、兩國、新大橋（濱町河岸）新大

橋(深川)永代(東詰)永代(西詰)等の停船所がある、賃錢は二錢五厘均一で、通行税が一錢附く。

■其他の乘賃錢　は一區域幾何と云ふ區分制度であるが、何れも決して高くはない、餘りに煩はしいから略して置く。

■吾妻と千住間　の汽船は同河上唯一の交通機關とし、兼ねて沿岸名所舊跡に富むを以て一面遊覽汽船として見る事も出來る、發着所は吾妻橋、言問、橋場、小松島、鐘ケ淵、千住の六箇所である、汽船は櫻花の期には特に繁頻に發船し又東京隨一の稱ある荒川堤の五色櫻並びに鬱金櫻の觀賞客の爲めに、毎年四月五日頃より同月中臨時觀櫻汽船を吾妻及び千住兩所より十分置き位に發船し遠く江北村に遡行せしめ、遊覽に便ならしむ。荒川行賃金は吾妻荒川間通行税とも十六錢、千住荒川間通行税とも十二錢である。

■東京の乘合自働車

世が進歩するに付け、自働車の賃貸は愚か、乘合さへ出來る事となつた、名付けて辻待自働車と云ふので、上野新橋、品川、萬世橋等諸停車場は勿論其他市内の要所々々に駐車場が設けられてゐる。

■郊外電車と鐵道

郊外の電車には凡て七線がある。第一は官線の中央線、これは舊甲武線で、萬世橋から中野に赴くのである、

■郊外の停留場　としては、千駄ヶ谷、代々木、新宿、大久保、柏木、中野等がある、第二はこれも官線の山の手線と稱する物で、上野から市の、

■西郊を迂廻　して品川を經て市内に入り呉服橋に至る線で、目白、池袋、澁谷、目黒、大崎などへ行くには此線を利用するのである。其他の五線は、

■何れも私設　線で、京濱電車と稱するのは、品川から神奈川に至るので、大森、川崎、など之れに據るのである。次に

■玉川電車　といふのは、中澁谷から玉川へ行く線で、以上五線とも全線乘車しても賃錢は十五錢内外で、一區域は二錢乃至三四錢と云ふ廉價である。此他に

■王子電氣　と云つて、下谷の三輪及び小石川大塚を起點として、飛鳥山に至るもの、及び新宿追分を起點として、代々幡まで自働車にて行き、それより電車にて、調布に至る、

■京王電車　と云ふのである、立川附近に於ける王川鮎漁には此線を利用するのが能い、これは追て織物産地の八王子まで延長する筈である。

■東武鐵道　本社は本所區小梅町に在る、同町の淺草停車場を起點として、上州伊勢崎に至る鐵道で、足利、伊勢崎、相生、足尾地方への近道である、今遊覽鐵道の方向より、沿線の重なる

■名勝舊蹟　を擧げると、堀切の菖蒲、西新井の大師、大相摸の不動尊、安行植物園、越ヶ谷の梅林並びに桃林、粕壁の牛島の藤及び藤塚の桃、永福寺、鷲

の宮神社、不動ケ岡不動尊、茂林寺の文福茶釜、館林の躑躅、善道寺鑁阿寺、行道山、足利學校、太田の金山、子育呑龍上人、金龍山、高山神社、新田義重の廟、藪塚の鑛泉、生品神社、安養寺の觸不動、八阪神社、新田館の坊、長樂寺、連取の老松などがある。

■本鐵道の特色　とすべきは、各地に於て他の鐵道と連絡するのを以て、何處への旅行にも甚だ便利なる事が其一で、列車は嘗く最新式ボーギー客車を用ふる事が其二で、並等の敷物も特等の如き毛織厚蒲團を用ゐて並等乘客に敬意を拂ふ事が其三、冬季は並等特等を通じて、蒸氣ストーブを用ゐて乘客をして少しも寒氣を感ぜしめないのが其四、淺草驛は本所、深川、淺草、神田、日本橋等の各區に接近して、水陸の連絡が最もよろしく、貨物の取扱ひ上に甚だ便利が能い爲めに、從つて運賃が低廉で、運送が迅速なのが其五である。且つ、

■團體には特別　の割引をする、即ち學生職工に對しては、三割から勿驚七割まで、普通團體に對しては、二割から五割まで、夫々人數の多少及び距離の長短に依つて割引をするのであるから、博覽會の如き場合には、成るべく團體を組織して此鐵道を利用するのが、公衆の便利である。

■京成電軍　別項郊外電車の内へも書いて置いたが、京成電車は、市内電車の押上停留場に接續して、起點たる押上橋停留場が設けられ、更に、曳舟、四ツ木、立石、高砂、市川、及び高砂より分岐して、柴又、金町等の諸停留場が設けられてゐる。

■其賃錢を列記　すると、押上から、曳舟まで三錢、四ツ木まで六錢、立石ま

て八錢、高砂まで十錢、柴又まで十一錢、金町まで十三錢、市川まで十三錢と云ふ割で、通行稅も此内に含まれてゐる。此電車の沿線は名勝舊線に富んでいるから遊覽電車として頗る妙である。

■沿道の勝地　としては、柳島妙見、木下川藥師、西光寺、青龍山極樂寺、吉野園、四ッ木園、中川の鐵橋、柴又帝釋天、江戸川堤の櫻花、葛西の靈松、半田稻荷、市川の桃、眞間山弘法寺、手兒奈社、國府臺等がある、此電車車臺は關西の、

■箕面電車と共に　模範的なるものであつて、乘工合が頗る能い上に迅速て、それに以上の勝地の他に、車窓から一目の下に見渡す所謂葛飾の廣野の景色は又棄て難い趣きがある。郊外一日の家族的並に團體の清遊に適して居る。

■大學病院案内

有名な病院へ行けば、何處でも設備は完全してゐるし、院長其他醫員の技倆も信賴するに足るが、普通の病院では、高價な診察料や藥價を拂はなければならぬ、然るに、

■帝大附屬　の病院に行けば、無論設備や、醫員の點に至つては毫も遺憾なる所なく、殊に診察無料、藥價の如きも殆ど實費に近い廉價であるから、種々なる點に於て富者も貧者も此迄に赴くのである。やゝもすると診察手續が極めて面倒のやうに思ふ人々が多いが、其實、

■簡單至極で　何等の六かしい點はない、先づ受附へ行つて診察申込用紙を請

受け、それに、原籍と現住所と姓名とを名記し、内科なり外科なり、それ〴〵自分の診て貰はうと思ふ所を記入して出せば能いのである、但し申込みの

■時間に制限　はある、其時期に因つて多少の差違はあるが、大程、初診の申込は朝七時まで、二度目からは八時までに申込まねばならぬのである。尤も科に依り時期に依つては、初診八時、再來九時などゝ云ふ事もある。

■分科の各名稱　を序に云ふと、内科、外科、眼科、婦人科、小兒科、皮膚科、外科、整形科、耳鼻咽喉科、齒科等である。以上の事を心得て置けば、大學の附近に澤山ある手續案内所などの手を煩はす必要はない。又

■入院の方法　であるが、之れは一應診察を受ければ、其病氣に依つて先方から、入院したら能いだらうとの勸告があるから、それからで能いのである。

■芝居と相撲

《芝居の部》

其一　東京の劇場

■十五區の劇場　東京市内の大小劇場を區別に據つて列記すると、次に樣になる。

麹町區　帝國劇場（丸の内）　有樂座（數寄屋橋内）
京橋區　歌舞伎座（木挽町）　新富座（新富町）
日本橋區　明治座（久松町）　眞砂座（中洲）
神田區　東京座（三崎町）　三崎座（三崎町）

赤坂區　演伎座（溜池）
本郷區　本郷座（春木町）
下谷區　市村座（二長町）
淺草區　宮戸座（公園裏）　蓬萊座（駒形町）
柳盛座（向柳原町）　開盛座（七軒町）
本所區　壽座（綠町）
深川區　深川座（仲町）

以上の外に、品川に品川座、牛込に牛込座などがある。又諸所に何々座と稱するのが折々あるが、始終活動寫眞などのみか興行せぬから、それは省いて置く。

其二　見物手引草

■二種の見物法　芝居を見るには、二種の見方がある、一つは木戸口から這入るので、他は芝居茶屋から行くのである。所が近頃は、追々文明的になつて來て、帝劇、有樂座は勿論、久しい間の因習に囚はれたる歌舞伎座其他の大小劇場などさへ、茶屋を廢して了ふに至つたのである。

■木戸から入る　には、一等なり二等なり自分の好む所の入場券を買つて這入ると、出方と稱する案内人が其席へ案内して呉れるから其處で見物するのである、此場合には、劇場の大小に依て、出方に多少の祝義を遣るのが通例となつてゐるし、又、菓辨壽と稱して、菓子と辨當と壽司とは喰ひたくなくとも、是非取らねばならぬ樣になつてゐる。尤も、帝劇、有樂の二座には祝義の菓辨壽

のと云ふ面倒な事は絶對にないのだ。

■茶屋に據る時　は、其茶屋所屬の出方が案内するので、矢張これにも同樣の祝義を遣り、菓辨壽を取つた上に、茶屋へ頭數に應じた茶代を遣らねばならぬ但し遣らなくとも催促は勿論せぬ。其代り茶屋から行けば、同じ場所でも能い所で見られるし、其他いろ〳〵な便利の點が尠くない、紳士的に見やうと思へば茶屋に據るのが能い。

■帝劇と有樂座　上記の通り此二座は、他の芝居とは大分改良して異つた點が多いが、其中でも他に異る所は、見物席に於ては、一切煙草を喫む事を禁じ、食物を食することを禁じてあるので、煙草が喫みたければ廊下若しくは喫烟室へ行かねばならず、食事をするには食堂へ行かねばならぬのである。

■各座の見物料　それは其時の出場俳優に據つて一定してゐないが、一名大要左の如くである。

《帝　劇》　三十錢内外より二圓七十錢位まで
《有　樂》　三十錢内外より二圓五六十錢まで
《歌舞伎》　四十錢内外より三圓位まで
《本郷、新富、明治、市村》　三十錢内外より二圓五六十錢まで
《其　他》　十錢より一圓五六十錢まで

其三　演劇の種類

■大別して三種　演劇をば大別して三種とする事が出來る、即ち第一舊派劇、第二新派劇、第三新時代劇がそれである。

■舊派劇と云ふ　のは、出雲の阿國以來、數百年傳はつて來たもので、重に維新前までの事蹟、人情、風俗等を脚色して上演するのであるが、歴史が古いだけに、諸種の基礎も固く、名優も一番多い。

■新派劇なる物　は、今より二十年ばかり前、須藤定憲、及び川上音次郎等が起した物で、專ら現代に於ける事柄を脚色して上場するのである。其俳優も以前は純然たる素人のみであつたが、今日に於ては、立派な黒人のみで、素人が飛込んでも、容易に一指を染める事も出來ないのである。

■新時代劇とは　舊派及び新派の演劇に慊らぬ連中が、奮ひ起つたもので、重に飜譯劇を上演し、時には創作をも演ずるのである、其俳優中には、自由劇場と稱する一團の如く、市川左團次等舊派の名なる俳優を以て組織せられたのもあるが、多くは素人の集合團ばかりなのである。其素人の中には、士肥春曙、東儀鐵笛など、文壇に多少名ある人も交つてゐるのである。三種類中に在つて最も意義ある物であるが、日の淺いだけに、基礎の調はぬ團體が大部分を占めて、其前途は未だ能く分らぬ。

其四　東京の女優

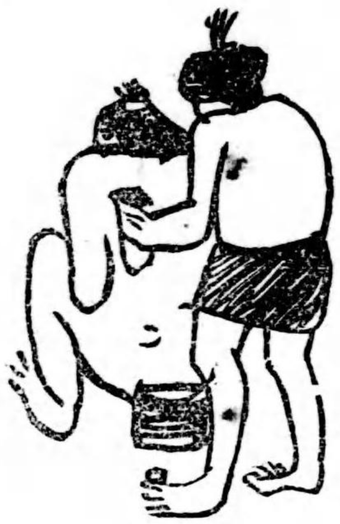
■新時代の要求　に依て起つたものに女優なる者がある、去る頃川上貞奴が夫と共に舞臺に上つた頃から、女優要求の聲は世に喧しかつたのであるが、帝劇が落成し、これに女優を使用するに至るや、頗る世の嗜好に投じたのであるが、就中帝劇の藤間房子

は女優らしき女優として聞えてゐる。其他森律子、初瀨浪子、村田嘉久子など代表的の人々である。

《相撲の部》

其一　國技館見物手引

東京の本場所は毎年一月と五月とに十日間づゝある、場所は兩國の國技館で、龍虎の闘ひ物凄じいものがある。其見物の案内を記すと、最も安いのは、



■四階の三等席　である、木戸で四十錢の紙札を買ひ、二錢で蒲團を買へば跡は何にも入らぬ。若し取組が入用なら二錢で買ひ、辨當が喰ひたければ賣りに來るからそれを買へば十五錢ぐらゐで濟む。但し見物しながら酒を飲みたい者は、瓢箪へでも入れて持つて行かねばならぬ、三四階に限り、壜詰は其筋から絶對に禁止されてゐる。其次は、

■三階の二等席　て、これは一圓である、此處は蒲團が三錢で、賣りに來る物は三等の四階と同じである。

■一等は一圓半　て、此處は二階である、併し通な見物は此料金で、豫じめ呼出に賴んで置いて、行司溜、正面溜、東西の力士溜の傍へ割込むのである、砂を頭から浴びても能い覺悟なら此處で見るに限る。

■最高の雛壇桟敷　は二圓宛であるが、能い場所は大抵賣切になつてゐるから茶屋に據らなければ碌な所は得られぬ。

■茶屋は二十軒　あるから、隨意な所へ行くか能いが、茶屋から行くと、どうしても一人少くも一圓ぐらるの茶代を置かねばならず、四五人で一間買へば、茶屋へ三圓、雇人へ二圓ぐらゐの茶代及び祝義を遣らねばならぬ。

■場内での食物　は、前記三四階の安辨當は別として、鰻丼が五十錢、辨當及び親子丼が二十五錢乃至三十五錢ぐらゐである、又場内には樣々の買店があるから、洋食、牛鍋、おでん、牛乳等何でもお好みの物を喰ふが能い。

■連中見物方法　近頃は相撲にも連中見物が流行して來たが、これに加入して行く時には、場所雛壇で、場代、辨當、菓子、茶、敷物等一切で二圓六七十錢で、此外には茶代も祝義も入らぬから、至つて經濟的である。若しも連中に觀誘されたら、それで行くに限る。

■東京の寄席

芝居へ行くのも事々しいと思ふ時には寄席へ行くに限る、市中至る處に寄席がある。その種類を分けて、講談、色物、義太夫、浪花節の四つとするのである。

■講談は講釋と　も云ふ、忠臣、義士、節婦、俠客等の事蹟を面白く敷衍して講述するのである。神田松鯉、一龍齋貞山、小金井蘆州、松林伯知など著名である、此他、市會議員の痴遊事伊藤仁太郎、早川貞水、細川風谷などは出ない。有名であるが餘り寄席へ

■落語手踊音曲　是等の物を總稱して色物と云ふのてある、人數が餘りに多くして其名を擧げる繁に堪へられぬ。

■義太夫節には　人情の機微を穿ち人をして折々ホロリと落涙させる事がある義太夫語の中に、男太夫と女太夫との別があるが、女ならては夜の明けぬ國は女太夫の方が盛んてある。綾之助、小清、組幸、素女、小土佐、菅之助、綾香清幸、綾菊、清寶、相玉など何れも眞打株である。

■會ては大道藝　人と嘲けられた浪花節も近來の勢ひと來たら素晴らしいもので、他の諸演藝は之れが爲めに尠からず壓倒されつゝある。辰雄、辰燕、三叟樂遊、樂燕、峰吉など錚々たる者てある。此他に雲右衞門、奈良丸などが居るが、これは堂々たる劇場へてなくては出場せぬ。尤も雲右衞門は自分の所有席なる神田の入道館へはどうかすると出演する。

■寄席の入場料　藝人の巧拙に依つて一定はして居ないが、大程、十錢ぐらゐから十七八錢、稀に二十五錢ぐらゐまてある、これに小物と稱して、火鉢、蒲團等に四五錢要するものと覺悟しなければならぬ。

■東京の活動寫眞

近來活動寫眞の熾んなる事は驚くべきて、あらゆる觀覽物盡く壓倒されて了ひさうな勢ひてある、それも其筈僅少な入場料で、舊劇も新派劇も、西洋の芝居も、乃至は風景風俗も見られると云ふのてあるから、其持て囃されるのも無理はない、活動の最も盛んなのは、

■淺草公園で　ある、市中にも常設館は幾らもあるが、映畫の多くは一旦淺草公園の諸館で觀覽せしめてから、市中のへ廻るのが通例であるし、殊に公園の方が、

■入場料が安い　のである、普通席大人五錢と云ふのと、七錢といふのと館に依つて二種の別がある、其上の席となると、十錢乃至十二錢から三十錢ぐらゐまでである。公園内に在る、

■常設館の館名　を擧げると、帝國館、千代田館、バテー館、電氣館、金龍館三友館、オペラ館、大勝館、キリン館、朝日館、富士館などである。

■一回の映寫時　間は三時間乃至四時間で、映畫の數は五六本が普通である、朝十時過ぎから、夜の十時過ぎまで、間斷なく繰返し〳〵映寫する、館に依ては、映畫の間に餘興として、浪花節、劍舞などを交へる所もある。映畫と相俟つて、興味を增せる物は辯士の說明である、從つて能い辯士になると、

■各館で引張凧　にする、彼等の生活狀態を少し述ると　その給料は思ひの外廉いので、普通は十四五圓から三四十圓ぐらゐである、尤も特別に上手な者になれば此限りでない、そして彼等には蕎麥代と稱して、入場者の數に依て、一種の配當を得るのである。彼等は藝人と稱する事は出來ぬが、

■物好きな女は　彼等を買ふとも傳へられてゐる、けれども辯士殘らずが、盡く女に買はれるとは、筆者は云はぬ、唯多くの中にはさう云ふのも有ると報じるに過ぎぬ。各常設館へ、

■映畫を供給す　る會社は、日本活動株式會社、彌滿登音影株式會社、など

であるが、日本活動が歴史が古いだけ、最も傑出してゐる。

■日本活動寫眞株式會社　は家庭の狀況其他後世に殘し置かんと欲するものゝ爲めに出張撮影の需めにも應ずるので、出張撮影料は種板フイルム代一尺に付二十五錢、出來上りフイルム代も同じく二十五錢の割である、尤も市内は右の外に車賃、市外は旅費日當を要するとの事である。又宴會其他の餘興として出張映寫は、一夜特種二十五圓以上甲種二十圓、乙種拾五圓で、寫眞の數は十二種一組全長八千尺内外で一夜は三時間が規定で、日活獨特の良辯士附である。又各地常設館及び巡業興行其他月極め貸附の契約をば左の如き規定の下に相談に應ずるのである。

器械及びフイルム（約六千尺）　技師一人附

甲一ケ月　金三百五十圓以上
乙同　金三百圓
丙同　金二百五十圓

尚フイルムの販賣もしてゐる、本社は日本橋區上槇町である。

■魚河岸の今昔

天正年中徳川家康が上洛して、攝州多田の神社に參詣した事があるか、此時渡船の用を達した攝州西成郡佃村の名主孫右衞門は、其勞を賞されて森の姓を賜はり、其後は始終肴を納めてゐたのである、然るに天正十八年八月朔日

■家康は江戸へ　入城した、此時孫右衞門は一族七人と共に江戸へ下り、幕府

に日々の肴を納め、其殘りをば市中に販賣してゐたのであるが、慶長の頃から、賣場を日本橋の本小田原町に設けた、これが抑々魚河岸の始めなのである。其後多少の變遷があり、以て今日に及んだのである。魚河岸に漂ふ

■空氣は一種別　である、魚臭い人間が駈け廻つてゐるのであるが其中に何とも云へぬ景氣のよい色が含まれてゐる、斯樣な日本橋際の所謂魚河岸からは、東京市中の人々の日々の食膳に上る魚を、絶えず供給しつゝあるので、

■殊に魚河岸　と云へば、任俠を以て聞え、演藝界は勿論、檜物町邊の花柳界などでは、魚の臭の付いた衣服で遊ぶものを、臭しとしないで歡迎すると云ふ風である、芝居でお馴染の一心多助など、最も能く此處の氣分を現したものである。

■投機界

誰やらの狂句に、

鎧橋、兜脱ぐ人、締める人

と云ふのがあるが、寔に日本橋區内の鎧橋を中にして、株、並びに米の取引は連日行なはれ、昨日の貧者も一朝にして大富者となり、今日の長者も明日は忽ちに無一物となつて了ふのである。株も米も共に仲買の手を經て買ふのであつ

て、株の方は阪本町、南茅場町邊に多くあり、米の方は蠣殼町に多くある、今代表的現物取引店を擧げると

■紅葉銀屋行　紅葉屋銀行は商界の奇傑神田鐳藏氏の經營する所のもので、資本金は一百萬圓、日本橋區阪本町千代田橋畔に屹然と聳え立つてゐる。

■特色は有價證券銀行　たる事にて有價證券の疏通上の便宜を圖り、有價證券を擔保とする貸附割引は特別便宜に取扱ひ、有價證券現物の賣買を無手數料で行ひ、證券附屬の利子以外に更らに紅葉屋所定の信托利子を附して預る國債證券の信托預りをも取扱ふので、其他國債證券の種類額面の交換及び貸附、公債社債其他勸業工業及び地方の農工債券の發行を引受け、又は其募集事務を取扱ひ、有價證券の保護預りを無手數料で行ふのである。故に左の人々には、

■紅葉屋銀行を利用　して、各自の利益を圖るのが、最も當代の策を得たるものと謂ふべきである。

(一)國債の所有者
(二)有價證券を賣出し又は有利の證券に乘換へんと欲する者
(三)有價證券を擔保として金融を望む者
(四)地方債、社債等を募集せんと欲する者
(五)現金の儘にて利殖を望む者

等で、何れも紅葉屋銀行に於ては、顧客本位として、顧客に有利なる取扱ひを爲すのである。若し夫れ、

■紅葉屋銀行の確實　に至つては、世に既に定評があり、吾人の今更ら贅言を費すの要を認めない、資本金の大部分は之れを日本銀行等に預托し以て其確實を期してゐると云ふ一事に依ても、大凡を察するに難からぬのである。尙同氏

は紅葉屋商會といふ有力なる現物店を經營してゐる。

■小池合資會社　小池合資會社は日本橋區兜町二番地に在り、小池國三氏の設立經營するところのもので、兼ねて株式會社商榮銀行、小池國三商店等の名義の下に、それ〳〵事務を取扱つてゐる。

■資本金一百萬圓　にして、積立金は二十三萬一千一百圓に及んでゐる、今、營業課目を擧げると、小池合資會社の部に於ては、

(一)國債證券の賣買及び交換
(二)地方債證券の賣買、募集及び引受け
(三)社債證券の賣買、募集及び引受け
(四)諸株式の賣買
(五)其他一切の信托事務

■小池國三商店　の部に於ては、東京株式取引所に於ける諸證券の定期取引受托て、又商榮銀行は、

(一)擔保附貸付及び手形割引
(二)府縣郡市町村團體及び會社に關する貸附

てある。此處と紅葉屋、並びに福島浪三商店との三軒は、三現物團と稱し、斯界に重きを爲してゐるのである。營業課目は大同小異、店舗の信用確實は同樣であるから、福島は只だ推薦のみに止めて置く。

■東京の橋梁

東京は大阪と違つて、比較的河が少いので、橋の數も大阪程ではないが、それでも數へて見ると五百五十餘と云ふ多數に達する。其中の有名なものを擧げるとしやう。但し、二重橋は麹町の名所の中へ書いて置いたから、此處には記さぬ。

■**東京の五大橋**　五大橋とは、隅田川に掛つてゐる、吾妻橋、厩橋、兩國橋、新大橋、永代橋を云ふので、何れも鐵橋で其名の如く東京中での大きな橋である。

■**吾妻、厩の二橋**　は、共に淺草區と本所區との間に掛り、五橋中での古顔である。

■**兩國橋は其昔**　武藏から下總へ掛つてゐたいで此名があるが、其後下總の一部が武藏へ編入されたので、今は日本橋區から本所區へ掛つてゐるのである。

■**新大橋は深川**　區から日本橋區に通じてゐる、五橋中で最近に改築されたもので、又五橋中で最も長い橋である。

■**隅田川筋には**　五大橋の外に、府下南千住から同じく北千住へ通ずる木橋の千住大橋、月島から佃島へ通ずる、これも木橋の相生橋、淺草橋場町から府下寺島村へ通ずる同じく木橋の白鬚橋等の大橋がある、其中白鬚橋は目下工事最中である。

■**神田川筋には**　小石川橋、水道橋、お茶の水橋、昌平橋、萬世橋、和泉橋、美倉橋、左衞門橋、淺草橋、柳橋等がある。お茶の水橋の附近は、其景色が支那の赤壁に似てゐると云ふので、小赤壁の稱がある、萬世橋は曾ては眼鏡橋と云ふ別名があつた、以前掛つてゐた橋の構造から出た名である。

■**外濠に掛つて**　ゐる橋では、神田橋、吳服橋、鍛冶橋、數寄屋橋、辨慶橋等が有名である。

■新橋は芝から　京橋區へ通ずる橋で、鐵橋である、今日に於ては、新橋と云ふ名は、橋それよりも、停車場若しくは花柳界を以て聞えてゐるのだ。

■石造りの京橋　は、京橋區銀座一丁目から、同じく南傳馬町へ掛つてゐる。

■日本橋は我國　里程の標準即ち江戸の中央として、昔から有名である、日本橋區内にあつて、往さ來さの人通り、送迎に遑がない。

■上野には三橋　といふのである、三つの橋から成立つてゐるので此名がある此橋の下には彼の佐倉宗五郎が隠れてゐて、將軍に直訴したと云ふ傳説がある此事は既に雲右衛門などでお馴染であらう。此他東京で有名な橋には、日本橋區内の鎧橋、荒布橋、親仁橋、神田の今川橋、淺草區内の今戸橋、吉野橋、山谷橋、其他枚擧に遑がない。

■古着の柳原

柳原といふのは、萬世橋から淺草橋に至る間を稱するので、此處は門並古屋店である、尤も一口に古着とは云ふものゝ、實は、

■新らしい物　が多いので、古着といふのは至つて尠い、こゝへ來れば、紋付でも袴でも絹物でも木綿物でも、或は洋服でも外套でも何でもある、併し此處では一般に、

■甚しい懸値　を云ふから、其積りで居ないと飛んだ馬鹿を見る事が往々ある、然らば何ういふ風な買方を

したら能いかといふに、先づ先方の言ひ値の

■**三分一乃至**　半分ぐらゐに値を打け、それから先は、臨機應變に懸引をするが能ろしい、上手に買ひさへすれば、以外に安い物が手に這入るのてある、所で一般とは云へないが、店に依ると、

■**如何はしい**　品を押付る所もないてはない、如何はしい品といふのは、鳥渡見ては分らない疵物を無疵のやうな顔をして賣付けたり何かするのてある。能く〳〵注意しなければ不可ぬ。

■東京の看護婦會

地方人が上京して旅館又は親戚、知人の元に宿を取り萬一重い病氣に罹れば無論病院へ入院すれば世話なしてあるが、それ程の病氣てないとか、或は入院出來ないやうな場合には、

■**看護婦の必要**　を認めるのてある、東京には數多の看護婦會があり、其處には常に多數の看護婦が居るから、派出の要求さへすれば即時に來て呉れる。

■**其給料は何程**　かと云ふに、彼等の等級は四等に分けられて居る、即ち一等二等、三等、等外、以上がそれてある。て、其日給は一等一圓、二等八十錢、三等六十錢てあるが、これは普通の病氣の時の看護料なのて、

■**傳染病の場合**　には、一等一圓三十錢、二等一圓、三等八十錢と云ふ割にな

る。此看護婦會の中には何うかすると、病氣の看護が目的でなく、淫賣が目的などと云ふ怪からぬのも間々ある、そんなのに出逢ない用心には、掛つてゐる醫者の紹介させるに限る、醫者と看護婦會とは、常に連絡が通ぜられてゐるのである。

自働電話

自働電話を掛けるのには、先づ把手を二三度廻し受話器を取つて耳に當てゝゐると、交換手が『何番へ』と聲を掛けるから、其時普通の音聲で、自分の掛けやうと思ふ番號を云ふのてある、交換手が繼ぎ了ると、『繼ぎました』とか、『料金をお入下さい』とか云ふ、其言葉が掛つてから、豫て用意して置いた料金を、穴の中へ入れ、そして始めて相手と話す事が出來るのてある、料金は東京市内及び市内へ接近した郡部は金五錢て、是は白銅に限るのてある。交換手が、『料金をお入れ下さい』と云はない中に入れて了ふと、其金は全然無駄になつて了ふのてあるから、返すゝも注意しなければならぬ。

食道樂

生る爲に喰へ、喰はんが爲めに生るなどゝの理屈は兎も角、人の命は食にあり大いに喰つて、大いに働くが當世には肝要な事てあらう。

日本料理店　て有名な家を數軒擧げやうならば、烏森の湖月、新橋の花月、

尾張町の松本、木挽町の萬安、みどり家、築地の新氣樂、香雪軒、日本橋では濱町の岡田、常盤家、小常盤、新葭町の百尺、それから倉田家、やまと、續いては矢の倉方面の福井、生稻、淺草へ入つて柳橋の龜清、柳光亭、深川亭、淺草公園の萬梅、松島、草津、一直、山谷の八百膳、下谷では上野町の伊豫紋、上野公園の常盤花壇、神田では金清、開花、花家、麹町では富士見樓、本郷では天神境内の魚十、赤阪では三河屋、八百勘、芝では竹芝館、山内の紅葉館、又本所方面では、枕橋の八百松、柳島の橋本などで此他一々擧げて數ふる遑がない。

■天麩羅では　銀座の天金、新橋際の橋善、日本橋の中華亭、淺草區役所前の中清など有名で、其他日比谷公園の前には平野と云ふ京都料理を喰はせる家や日本區通四丁目には島村といふ金麩羅や鶉碗を以て聞えた家がある。

■牛鳥店では　市内各所のいろは、四谷見附外の三河屋、神田淡路町の中川、淺草のちんや、常盤、銀座の松喜、向島の鳥松など、これも中々數へ盡す事が出來ぬ。

■西洋料理　では築地と上野との精養軒、芝公園の三緣亭などを筆頭に、是れ亦夥だしい數である。一言老婆心に洋食の卓上に於ける大要の心得を述るとしやう。

▲洋刀は右の手に持ち、肉刺は左に持つ事▲洋刀で以て食物を口に入れては不可ぬ▲パンは手で小さく毟つて喰ふので、喰ひ付いたり、洋刀で切つたりしては不可ぬ▲バタはバタナイフで分て取り、自分のナイフで取つて

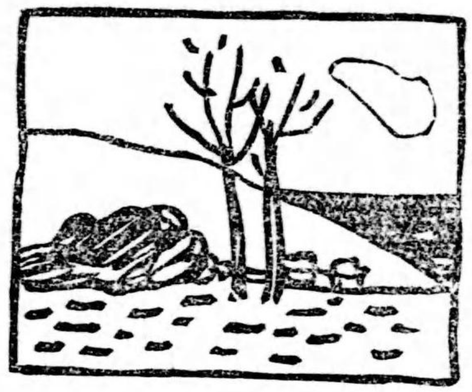
は不可ぬ▲口の中に食物を入れて席を立ては不可ぬ▲食事中咳や欠や嚏は慎まなければならぬ▲食事最中に齒の掃除をしては不可ぬ▲スープを吸ふに音を立てゝは不可ぬ▲骨は肉刺で受けて皿の端へ置くので、口から直く皿へ出しては不可ぬ▲珈琲は茶碗を取上げて呑むので、皿ごと取上げては不可ぬ▲珈琲を呑む時に匕を茶碗に入れたまゝ呑んでは不可ぬ▲食卓に肱を突いては不可ぬ▲食卓を叩いて柏子を取つたり、歌を唄ひ、口笛を吹いたりなどしては不可ぬ▲食事の終つた時には洋刀と肉刺とは揃へて右の方へ置かねば不可ぬ──此他にも種々な面倒な事があるが、大要右の如くである。是等の事どもに違つたとて、眞逆縛られもしないが、まア知らないよりも知つてゐた方が能からう。

■食傷新道　日本橋の白木屋の後横町を俗に食傷新道といふ、それは種々な料理屋があるからである。

■カフエーパウリスタ

カフエーは近來の流行であるが、其多くの店の給仕女は何れも紅粉に身を裝ひ從つて行く客も勢ひ餘分の散財をせねばならぬ譯であるが、パウリスタばかりは、給仕は何れも十四五の男兒ばかりを使用して、心附は一切謝絶してゐるので、大きに世の好評を博してゐる。名物のコーヒーはブラジル產の香氣馥郁として賞すべく、其他、パン、菓子、サンドウイッチ、玉子、果實、牡蠣の類何れも新鮮美味にして且つ價も甚だ廉い。土產にはコーヒーの一斤入(七十五錢)

半斤入(三十八錢)など頗る氣が利いてゐる。所在地は京橋區南鍋町、時事新報社の眞向ふで、コーヒーは一杯五錢、それだけで出て來ても決して可厭な顏をしないのみならず、寧ろ歡迎するのが此處の特色である。



■東京の郊外

餘り毎日、黃塵萬丈の市中にばかり居ては衞生に能くない、稀には郊外に出るのも能からう、東京の郊外をば、別けて六大別する事が出來る、即ち、品川大森方面、澁谷目黑代々木方面、大久保中野方面、雜司ヶ谷方面、根岸方面、向島方面が是れてある。

其一　品川大森方面

■海晏寺の紅葉　これは京濱電車の鮫津停留場から直きて、古來有名な物である。

■鈴ヶ森の刑場　維新前まで死罪人を刑罰に處した所で、白井權八、白木屋お熊、八百屋お七など、芝屋で有名な人々の最後を遂げた場所であり、松吹く潮風の音が今も淋しい、京濱電車の海岸停留場から僅かである。

■大森の海水浴　夏日一日を涼しく消すには持て來いの所で、海水旅館が幾軒もある、電車同上。費用は贅澤を云つたら限りがないが、辨當持參か何かで、極めて平民的に遣つて來れば、二三十錢でも濟むのである。

■六郷の桃の花　三月末、四月の始めにもなると、六郷川の堤は桃の花で美し

く色取られ、極めて格好な遊び場所となるのである。

■矢口渡の舊蹟　これは六鄕から一里ばかりも歩かなければならぬ、南朝の忠臣新田義興が討死した舊蹟で、附近に義興を祀つた新田神社、其家來の十六騎塚などがある。芝居でやる頓兵衞の矢口の渡は此處である。

■大森蒲田の梅　大森へも蒲田へも京濱電車が通じてゐる、寒風に芳香を放つ花の兄を尋ねて日を消すのも亦風流の極みである。

■森ケ崎の鑛泉　山谷停留場から十二三丁で腕車も通じる、海濱に臨んで空氣爽かに、十數軒の旅館がある。

■川崎には大師　穴守には稻荷がある、最も花柳演藝界の人々に信仰せられてゐる。信心家は是非行くべしてある。

共二　澁谷目黑代々木方面

■目黑の比翼塚　權八小紫の比翼塚は山の手線の目黑驛から程近い。此邊は春ならば筍飯、秋なれば栗飯が名物だ。此附近に大日本麥酒會社の大工場がありゐ園内廣く園遊會の催しに適してゐる。

■代々木練兵場　丘があり林があり、一望廣々たる芝生があり、兵を練るには屈竟な所である、芝生に腰を下して兵士の活躍するのを見るのも一興である。代々木驛から七八丁。

■神宮の建設地　明治神宮の建設豫定地は代々木御料林の中である、猥りに入る事を許されぬが、遠くからなりと拜むが宜らう。此方面には、名ある所は餘りないが、其代り至る所が好散策地である。

其三　大久保中野方面

■大久保の躑躅　中央東線の大久保驛から行けば直ぐだが、市内電車の新宿終點から行つても六七町に過ぎぬ。

■淀橋の淨水場　市内の水道は、此處から十五區に向つて送水されるのである新宿終點で電車を降り、汽車の踏切を越えると直ぐである。

■中野の電信隊　陸軍の電信隊である、中央東線の電車の終點、中野驛で降りると一足である。

■堀の内の祖師　中野驛から十六七町もあらうか、野道を行くのも中々乙であるが、歩くのが可厭な人は腕車に倚るも能からう。

■井の頭辨財天　中央東線の荻窪驛の附近で紅葉の名所である。近い中に公園となる豫定である。

■小金井の櫻花　これは國分寺驛で降りるのである、上野が散り、向島が散つた時分に見頃となる。

■高雄山の紅葉　東京近在での登山と云へば先づ此處である、中央東線の淺川驛から四五丁で麓に達する、紅葉を以て聞えてゐるが、瀧もあるから、避暑にも適してゐる。

其四　雜司ヶ谷方面

■鬼子母神參詣　雜司ヶ谷と云へば、直に鬼子母神社を想はせるのである、此處へ參詣するには、江戸川の終點で電車を降り、左に坂を上つて女子大學の前を行くのが順路であるが、それよりも大塚線の護國寺前で電車を降りて、

■音羽の護國寺　を見、春なれば、護國寺の隣りの、

■觀音境内の櫻　を、初夏なれば躑躅、秋なれば紅葉を賞しながら、裏道傳ひに鬼子母神へ行くのが、最も興趣の深い歩き方である。音羽は關東地方に於ける唯一の櫻紙の製造地である。

■雜司ヶ谷名物　としては、薄の穂で作つた木兎、小鳥料理などがある。

其五　根岸方面

■文人墨客在住　の地として、曾ては閑靜風雅を以て聞えた根岸の地も、今は追々開けて、文人墨客も大低居なくなつたが、

■三河島の田南　から、道灌山方面へ掛けての散策は、又棄て難い赴きがある

■飛鳥山の櫻花　王子驛の上にあり、東都屈指の所である。

其六　向島方面

■隅田河畔の櫻　これは前に述たから改めて云はぬ。三圍神社、牛島神社等もこれと同樣。

■白鬚神社　は南葛飾郡寺島村に在る、猿田彦を祀たものである。こゝから、

■百花園へは　漸く一丁ばかり、此處は春夏秋冬花不絶と稱するだけに、四季共に遊客が絶へぬが、就中秋の七草を以て聞えてゐる。以上二箇所は汽船の言問若くは小松島て上るのが便利てある。

■木下川の藥師　百花園から約半里にして木下川の藥師に達する、境内の松は有名なものである。

■四木の吉野園　は木下川藥師から五六町ばかり、園内は一萬坪といふ廣さて

殊に花菖蒲の名所として知られてゐる。以上二箇所は京成電車の四ッ木停留場で下りるがよい。

■柴又の帝釋天　は柴又村に在る、此處からホンの一足で江戸川端へ出る、初夏から初秋に亘つて、行々子が間斷なく鳴つてゐる。江戸川を渡して越えて、十四五町行くと、

■鴻の臺の高地　に達する里見、北條の古戰場で、秋の紅葉は見事なものである。附近に野戰砲兵十五、十六の兩聯隊の兵營がある。鴻の臺から數丁にして

■眞間山弘法寺　に達する事が出來る、これも紅葉が申々よい。眞間山の麓には、

■眞間の手古那　の社がある、

我も見つ人にも告げん葛飾の
　眞間の手古那が奥都城どころ

其の薄命の美人は長くこゝに眠つてゐるのだ。柴又へ行くには京成の柴又停留場、鴻の臺、眞間山へは市川で下るのが能い。

■向島方面の中　の一として、龜戸を落す譯には行かぬ、天滿宮の社の莊麗は境内の藤、梅等と共に普く世に聞えてゐる、附近に白蛇の棲むと云ふ柳島妙見の社がある。

■堀切の菖蒲園　は南葛飾郡堀切村にある、武藏園、小高園など聞えてゐる。

■木母寺　は南葛飾郡隅田村に在る境内に薄命の美少人梅若丸を祀つた神社がある。

■花柳界

著者は花柳界から賄賂を貰つてゐる譯てないから、花柳界の案内を書いたとて、必ずしも遊興しろと勸めるのてはない、併し人間は社交的動物てあるから、場合に依ては交際と云ふ事もあるし、時には浩然の氣も養はねばなるまいから、御參考の爲めに極めて簡單に述て置かう。但し所謂通だの、粋だのといふ

遊び方ては決してない。先づ第一は、

■交際界の寵兒 たる藝者てある。藝者は市内至る所にゐて、藝者の居ない區

と云ふのは一區もない、其所在地を擧げると、麹町には富士見町と飯田河岸、神田には講武所、日本橋には日本橋藝者、葭町、柳橋、京橋には新橋、新富町霊岸島、芝には烏森、神明、芝浦、麻布には麻布藝者、赤阪には赤阪藝者、四谷には津之守、牛込には神樂阪、小石川には白山、本郷には湯島、下谷には同朋町、數寄屋町、淺草には公園、吉原、本所には向島、龜戸、深川には仲町、洲崎、其他郡部には品川藝者、澁谷道玄阪、大森等である。

■藝者を招ぶ には、料理店なり待合なりから口を掛けるので、其揚代、即ち玉と稱するものは、約一時間に付三十錢といふのが通例で、此外に祝儀を二圓遣らねばならぬ。併し此時間は其時其家と客とに依り、多少の手心はあるので一時間半ぐらゐても、一時間と見なされる時もあるが、急がしい時期てあると

か、日曜、祭日などゝ云ふ時には、無論時間きつちりてある。藝者と共に酒間の興を助くる者に、

■半玉と稱する　者がある、早く云つて見れば藝者の見習で、玉を藝者の半分だけ貰ふから此名が起つたので、或はお酌とも謂ひ、單に雛妓とも云ふ又古風な人は赤襟などとも呼ぶので、祝儀も是亦半分でよろしい。元來藝者は、

■藝を賣るべき　ものてあるが、昔から中々さうばかりは行かぬ、殊に近來は藝よりも肉を目的としてゐるものが多いので、只騷ぐ丈けならば、料理屋で結構てあるが、第二の目的を達せん爲めには、待合へ行かねばならぬ。

■料理屋で騷ぐ　場合には、普通席料は入ず、帳場へ茶代の必要もなし、唯女中に祝儀の一圓も遣ば能いのてあるが、其代り料理に比較的餘計に金を費さねばならぬ。之に反して待合ては、料理には金の掛ぬ代り、席料を拂はねばならぬ。

■藝者の醜業料　はと云ふと、相場が有つて無いものて、三十圓五十圓或は百圓ぐらゐのもあるが、これは特別として、普通東京では、白切符、青切符、赤切符など汽車の切符の等級を轉用して不見轉料を凡て三級に區別してゐる、即ち白は十圓、青は五圓、赤は三圓といふのが通例である、尤も場末に行けば、二圓諸（オーライ）などと云ふのもある。

■半玉は餘程　高い、まだ春を知らぬ蕾の花を折りたいのは兎角人の弱點て、十圓以上が普通てあるが、其者の縹緻、其家の看板、土地柄などに依て一概には云はれぬ。是が俗に云ふ水揚料てある。

■純粹の情を　賣る娼妓は、社會の思潮に連れ藝者並びに白首等に押されて、

近來は何方かと云へば下火の方である、娼妓と云へば昔の所謂傾城て、花魁とも云へば女郎とも云ふ。目下東京では、一口に

■二廓四宿　と云つて、吉原、洲崎の二大遊廓、新宿、品川、千住、板橋の四宿、合せて六ケ所あるのである。吉原、洲崎は青樓のみ集合して一廓を爲して、此處に赴く者は或る一部の商人其他を除いては、盡く遊興、若しくは所謂素見を目的として入込むのであるが、他の四宿は往還の傍らにあるので、旅人も通れば所用に依て通る者もあり、新宿の如きは電車さへ通じてゐるのである。

■大店中店小店　と三種の別が青樓にはあり、遊び方にも引手茶屋と稱する一種の仲介者の手を經て行くのと、直接に登樓するのとの二種がある、尤も茶屋の手を經て行くのを俗に茶屋受けと云ひ、例へば大文字樓であるとか、稻本であるとか、角海老であるといふ大籬に限り、小店は絶體に茶屋受けなどゝ云ふ事はない。引手茶屋から行くのは全くの紳士的遊び方であるが、從つて幇間や藝者を聘ぶなどゝ事が兎角大袈裟になり、其上ヤレ茶代だ、ソレ何だと餘計な散財をしなければならぬ。

■中店並に小店　は大籬の如く、費用が掛らないが、時とすると暴利屋と稱し遊興費以外に法外の金を貪り、又は俗に人の懷中を讀むと云つて有金殘らず捲上げやうと掛る所もあるから、何れにしても斯ういふ場所へは、宜しく市川左團次の十八番たる佐野次郎左衞門の芝居を鑑みて、御用心〳〵。

■東京の土産

全國を通じて、凡そ東京ぐらゐ百貨百物の兼ね備つてゐる所はないが、固有の名物といふとさて尠い。曾ては江戸錦繪と云つて有名であつたが、それも今は見る影もなく、國への土産にてもしやうといふには、人々の鄕國にない物を見繕つて整へて行くより外仕方があるまい。而して有形なる土産は以上の次第であるが、此外無形の土産も携ふる事を忘れてはならぬ無形の土産とは如何なるものかと云ふに、第一はいろ〳〵な物を見聞して智識の啓發に努める事で第二は確實なる保險會社に加入して、不慮の變事に備へるとか、有力な銀行に貯金をして將來の爲めを計るなどゝ云ふ事である。

■地方人と銀行會社

東京の人は既に東京市に於ける銀行會社の營業狀態と其信用の程度を熟知してゐるから蛇足かも知れぬが、遠隔なる地方人士の爲めに資本の大小を問はず全國に關係のある五六の銀行會社を爰に紹介するのである。是等に加入して其加入契約證又は預金帳を持ち歸ることも一つのよい東京土産ではないか。

■東京府農工銀行

東京府農工銀行は麴町區有樂町二丁目一番地にあり、最も確實なる銀行で、明治卅年十二月の創業で資本金壹百萬圓而も全額拂込で、主として農工業者に對し低利資金を融通して產業の發展に努めてゐる、同行の低利金融の抵當物件は東